

プログラム

基調講演

特別講演

教育講演

年会長講演

年会長企画シンポジウム

年会特別企画シンポジウム

日本精神薬学会合同シンポジウム

Tips

学会委員会企画

武田文和賞受賞講演・表彰式

優秀論文賞受賞講演・表彰式

シンポジウム

ワークショップ

Session (主題)

メディカルセミナー

スポンサードセミナー

厚生労働省事業セミナー

ミニセミナー

口頭発表

ポスター発表

基調講演

基調講演

緩和薬物療法のキープレイヤーをめざして

6月21日(土) 9:30~10:20 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長: 武田 泰生 (日本病院薬剤師会)

演者: 的場 元弘 (東京西徳洲会病院)

特別講演

特別講演 1

病む人の気持ちを支え、希望につながる全人的医療

6月21日(土) 10:30~11:20 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長: 伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

演者: 所 昭宏 (国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科/支持・緩和療法チーム)

特別講演 2

改正大麻取締法の現状：大麻の医療応用と濫用問題の狭間で

6月21日(土) 15:40~16:30 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長: 鈴木 勉 (湘南医療大学薬学部)

演者: 船田 正彦 (湘南医療大学薬学部薬理学研究室)

特別講演 3

オピオイドと副作用の複雑な関係をデータベースから読み解く

6月22日(日) 13:30~14:20 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長: 加賀谷 肇 (湘南医療大学薬学部臨床薬剤学)

演者: 植沢 芳広 (明治薬科大学薬学部医療分子解析学)

教育講演

教育講演 1

外科医と作家と家事育児を両立させるタイムマネジメント

6月21日(土) 12:55~13:55 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長：国分 秀也 (湘南医療大学薬学部臨床薬理学研究室)

演者：中山祐次郎 (湘南東部総合病院/湘南医療大学/作家)

教育講演 2

“すべての人に緩和ケア”を目指して ~これまでの歩みと今後の課題~

6月21日(土) 14:05~15:05 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長：金子 健 (慶應義塾大学病院)

演者：関根 龍一 (亀田総合病院疼痛・緩和ケア科)

年会長講演

年会長講演

緩和医療薬学という専門領域を担う薬剤師のあるべき姿

6月21日(土) 9:00~9:30 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長：中川 貴之 (和歌山県立医大薬学部)

演者：伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

年会長企画シンポジウム

年会長企画シンポジウム

患者さんとともに考える

—緩和医療における薬物療法を極める薬剤師への期待—

6月22日(日) 9:45~11:45 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールB)

オーガナイザー：伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)
村上 雅彦(岩手県立大船渡病院緩和医療科)
座長：伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)
村上 雅彦(岩手県立大船渡病院緩和医療科)

年会長企画-1 薬物治療に影響する患者さんの苦しみと医師の苦しみ、それに対する薬剤師の役割

の場 康德(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科外科学講座消化器外科学)

年会長企画-2 患者さんのこころと向き合う～コミュニケーションのエッセンス～

清水 研(がん研究会有明病院腫瘍精神科)

年会長企画-3 医療大変革時代を迎えた緩和医療～誰一人取り残さない緩和医療とケアの実現に向けて～

桜井なおみ(一般社団法人CSRプロジェクト)

年会長企画-4 30歳での「がん」。働き盛りの治療、就労、生活について～7回の再発を乗り越えて～

渡部 俊(朝日航洋株式会社航空事業本部営業統括部)

年会特別企画シンポジウム

年会特別企画シンポジウム

薬物吸収のサイエンス：基礎研究から学ぶプレジジョン・メディシン

6月21日(土) 9:30~11:30 第2会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 国際会議室)

オーガナイザー：白坂 善之(昭和薬科大学薬学部薬剤学研究室、金沢大学医薬保健研究域薬学系)
大谷 壽一(慶應義塾大学医学部病院薬剤学教室/慶應義塾大学病院薬剤部)
座長：白坂 善之(昭和薬科大学薬学部薬剤学研究室、金沢大学医薬保健研究域薬学系)
大谷 壽一(慶應義塾大学医学部病院薬剤学教室/慶應義塾大学病院薬剤部)

年会企画-1 消化管吸収とトランスポーターのイロハ

大谷 壽一(慶應義塾大学医学部病院薬剤学教室/慶應義塾大学病院薬剤部)

年会企画-2 最先端イメージング技術で覗く薬物の消化管吸収動態の世界

白坂 善之(昭和薬科大学薬学部薬剤学研究室、金沢大学医薬保健研究域薬学系)

年会企画-3 ヒト由来組織検体を活用した消化管吸収における代謝酵素・トランスポーターの役割の解析

前田 和哉(北里大学薬学部薬剤学教室)

年会企画-4 Modeling and Simulation を用いた経口製剤からの薬物吸収及び食事の影響予測

清田 豪志(アステラス製薬株式会社製剤研究所)

日本精神薬学会合同シンポジウム

日本精神薬学会合同シンポジウム 精神薬物療法と緩和薬物療法のネットワーク

6月22日(日) 13:30~15:30 第2会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 国際会議室)

座長：椎 崇(第9回日本精神薬学会総会・学術集会大会長、北里大学病院薬剤部)
伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

合同S-1 腫瘍神経科学研究から視るモノアミン・神経ペプチド制御のがん治療における重要性

成田 年(星薬科大学薬理学研究室)

合同S-2 緩和ケア患者で見られる認知機能障害 ～“ケモブレイン”とは何か～

中川 貴之(和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室/附属病院薬剤部)

合同S-3 私が経験したトータルペインから薬学的介入を考える

黒沢 雅広(昭和医科大学烏山病院薬局)

合同S-4 睡眠薬・抗不安薬の適正使用を考える

高橋 結花(東京女子医科大学病院医療安全推進部薬剤部)

Tips

Tips 1

オピオイドの副作用を受容体から読み解く

6月21日(土) 12:55~13:25 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

池上 大悟(湘南医療大学薬学部)

Tips 2

オピオイド受容体と薬理遺伝学

6月21日(土) 13:30~14:00 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

藤田和歌子(順天堂大学薬学部薬物治療学分野)

Tips 3

オピオイドの薬物動態

6月21日(土) 14:05~14:35 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

国分 秀也(湘南医療大学薬学部臨床薬理学研究室)

Tips 4

薬剤師でもできるアピアランスケア

6月21日(土) 14:40~15:10 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

さとう桜子(株式会社 makemerelax)

Tips 5

消化管閉塞における症状緩和

6月21日(土) 15:15~15:45 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

川名真理子(医療法人鉄蕉会亀田総合病院薬剤部)

Tips 6

オピオイド耐性

6月21日(土) 15:50~16:20 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

高野 陽平(砂川市立病院薬剤部)

Tips 7

皮膚障害対策で知っておくべきポイント

6月22日(日) 11:10~11:40 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

矢野 琢也(住友別子病院)

Tips 8

薬剤師が持つべき「情報の盾」、がん呼吸困難を緩和するために

6月22日(日) 11:45~12:15 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

吉本 鉄介(中京病院緩和支援診療科)

Tips 9

がん疼痛の薬物療法

6月22日(日) 13:15~13:45 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

中西 順子(三豊総合病院薬剤部)

Tips 10

非がん性疼痛・慢性疼痛の Tips

6月22日(日) 13:50~14:20 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

岡本 明大(三重大学医学部附属病院薬剤部)

Tips 11

腹水、胸水、悪液質

6月22日(日) 14:25~14:55 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

壁谷めぐみ(名古屋記念病院薬剤部)

Tips 12

緩和薬物療法における薬物間相互作用 ~適切な評価と対応のポイント~

6月22日(日) 15:00~15:30 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

城山 亮輔(東京大学医学部附属病院薬剤部)

学会委員会企画

学会委員会企画 1

認定薬剤師・専門薬剤師制度について

6月21日(土) 12:55~14:25 第2会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 国際会議室)

オーガナイザー：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院)
吉澤 一巳(東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)
座長：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院)
吉澤 一巳(東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)

委 1-1 緩和薬物療法認定薬剤師制度の改定ポイント

吉澤 一巳(東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)

委 1-2 認定薬剤師としての緩和医療へのアプローチ

藤掛 沙織(独立行政法人地域医療機能推進機構東京新宿メディカルセンター)

委 1-3 緩和医療専門薬剤師の改定ポイント：専門性を深化させる新たな要件とは

高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)

委 1-4 緩和医療専門薬剤師に必要な能力と心構え

土屋 裕伴(AMG 上尾中央総合病院薬剤部)

パネリスト：土屋 裕伴(AMG 上尾中央総合病院薬剤部)
中西 順子(三豊総合病院薬剤部)
岡本 明大(三重大学医学部附属病院薬剤部)
藤掛 沙織(JCHO 東京新宿メディカルセンター薬剤部)
加藤 麻衣(大阪鉄道病院薬剤部)
辻井 聡容(公立豊岡病院組合立豊岡病院)

学会委員会企画 2

災害時に「緩和薬物療法を継続するためのネットワーク」構築に向けて ～災害対策 TF の目指す方向性～

6月21日(土) 15:55~17:25 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

オーガナイザー：金野 良則(気仙中央薬局)
座長：金野 良則(気仙中央薬局)

委 2-1 東日本大震災から、大規模災害の医療現場を知る ～ネットワークと柔軟性～

村上 雅彦(岩手県立大船渡病院緩和医療科)

委 2-2 災害時の調剤に必要な情報について

金田 崇文(株式会社ケイ・クリエイト)

委 2-3 薬剤師が災害医療のイロハを知るべき理由～令和6年能登半島地震の対応経験より～

梅下 翔(石川県済生会金沢病院薬剤部)

学会委員会企画 3

緩和医療に携わる薬剤師として、私たちは何ができるのか？

6月21日(土) 12:55~14:25 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

オーガナイザー：今井 哲司 (和歌山県立医科大学)
佐伯 朋哉 (横浜南共済病院)
座長：石原 正志 (岐阜大学医学部附属病院)
佐伯 朋哉 (横浜南共済病院)

委 3-1 病院薬剤師 (認定取得まで)

番場麻菜美 (青森県立中央病院)

委 3-2 病院薬剤師 (認定取得後 ~ 教育的立ち位置、研究への参画)

城山 亮輔 (東京大学医学部附属病院)

委 3-3 診療所薬剤師 (認定者の地域での役割)

餅原 弘樹 (医療法人社団いぶきの森のぞみの花クリニック)

パネリスト：今井 哲司 (和歌山県立医科大学)
番場麻菜美 (青森県立中央病院)
城山 亮輔 (東京大学医学部附属病院)
餅原 弘樹 (医療法人社団いぶきの森のぞみの花クリニック)

学会委員会企画 4

先端学術緩和医療と臨床多施設共同研究 (最終報告)

6月21日(土) 9:30~11:00 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

オーガナイザー：高瀬 久光 (順天堂大学医学部附属浦安病院)
内田まやこ (九州大学病院薬剤部)
座長：高瀬 久光 (順天堂大学医学部附属浦安病院)
内田まやこ (九州大学病院薬剤部)

委 4-1 終末期患者の退院前カンファレンスにおける薬薬連携の現状に関するアンケート調査 (最終報告)

土屋 貴 (地方独立行政法人福岡市立病院機構福岡市立こども病院薬剤部)

委 4-2 体動時の突出痛に対する予防的レスキュー薬の有効性に関する検討：多施設共同後方視的調査 (最終報告)

田口 諒 (静岡県立静岡がんセンター薬剤部)

委 4-3 緩和ケアに関する地域連携評価尺度を用いた薬局の多職種連

高橋 伸夫 (医療法人社団三育会在宅療養支援診療所新宿ヒロクリニック)

委 4-4 がん疼痛を認める小児がん患者と家族に対する薬剤師の関わりにおける現状調査 (最終報告)

森尾佳代子 (神戸大学医学部附属病院薬剤部)

学会委員会企画 5

医薬品適正使用と薬物乱用防止教育の現状と未来 ～これから求められる薬剤師の役割とは～

6月21日(土) 16:40~18:10 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

オーガナイザー：金子 健(慶應義塾大学病院)

座長：渡辺富美子(日本調剤柏の葉公園薬局)

松井 美月(ak 薬局西横浜在宅調剤センター店)

委 5-1 病院薬剤師がどのように青少年教育に関わるか？

私が青少年教育に関わるようになったきっかけ・道のり・想い

伊藤 剛貴(草加市立病院薬剤部)

委 5-2 薬剤師による薬物乱用防止教育の有効性と求められる配慮

横山 郁子(神戸薬科大学地域連携サテライトセンター)

委 5-3 青少年を取り巻く薬物乱用の実態と規制の現状

田口 真穂(横浜薬科大学臨床薬学科レギュラトリーサイエンス研究室)

武田文和賞受賞講演・表彰式

武田文和賞受賞講演・表彰式

6月22日(日) 15:40~16:40 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長：成田 年(星薬科大学薬理学研究室)

武田文和賞受賞講演 トランスレーショナル・リサーチを目指して

鈴木 勉(湘南医療大学薬学部)

優秀論文賞受賞講演・表彰式

優秀論文賞受賞講演・表彰式

6月22日(日) 14:30~15:30 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール B)

座長：伊勢 雄也(日本医科大学付属病院)

優秀論文賞受賞講演-1

がん終末期ポリファーマシー状態からの向精神薬の急激な断薬により悪性症候群を発症した1例

殿垣 聖子(医療法人協和会千里中央病院薬剤科)

優秀論文賞受賞講演-2

フェンタニル併用投与がワルファリン投与患者のPT-INRに及ぼす影響：

多施設共同レトロスペクティブ観察研究

楨原 克也(淀川キリスト教病院薬剤部)

シンポジウム

シンポジウム 1

緩和医療に薬剤師が必須とされるために ～変化する時代の中で今、求められることは？～

6月21日(土) 16:40～18:10 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールB)

オーガナイザー：高野 陽平(砂川市立病院薬剤部)
石原 正志(岐阜大学医学部附属病院薬剤部)
座長：飯田 真之(神戸大学医学部附属病院)
高野 陽平(砂川市立病院薬剤部)

S1-1 「緩和医療に薬剤師は必要だ！」と言われるために我々は何をするべきか
～大学病院で働く薬剤師の立場から～

城山 亮輔(東京大学医学部附属病院薬剤部)

S1-2 薬剤師外来を通して出来ること～がん治療のはじまりからの関わり～

高田 知世(国立病院機構栃木医療センター薬剤部)

S1-3 緩和医療における薬剤師が担うべき役割
～二次医療圏における中規模病院での地域連携を中心とした取り組み～

大内友季江(やまとコミュニティホスピタル光ヶ丘スペルマン病院薬剤科)

S1-4 地域医療を変える発信力～在宅医療の未来を拓く薬局薬剤師～

丸一 泰雅(タイガープライム株式会社タイガー薬局)

シンポジウム 2

心不全緩和ケアの実践と課題～ハートをつなぐ多施設・多職種連携～

6月21日(土) 15:55～17:25 第2会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 国際会議室)

オーガナイザー：坪谷 綾子(昭和大学横浜市北部病院薬剤部・昭和大学薬学部病院薬剤学講座)
土井 真喜(株式会社メディカルシステムネットワーク・NPO法人北海道心不全医療連携アカデミー)
座長：坪谷 綾子(昭和大学横浜市北部病院薬剤部・昭和大学薬学部病院薬剤学講座)
土井 真樹(株式会社メディカルシステムネットワーク・NPO法人北海道心不全医療連携アカデミー)

S2-1 在宅静注強心薬持続投与の実際と課題

肥後 太基(医療法人社団ゆみのゆみのハートクリニック渋谷)

S2-2 症状緩和・苦痛緩和の視点で考える心不全患者のセルフケア支援と意思決定支援

林 亜希子(北里大学病院看護部)

S2-3 多職種連携で心不全パンデミックに備える～薬局薬剤師の役割～

早川 晃央(なの花薬局登戸店)

S2-4 病態からシンプルに理解する心不全：症状緩和と標準薬物療法の実践

土岐 真路(聖マリアンナ医科大学病院治験管理室)

シンポジウム 3

がん患者病態のマイクロ-マクロ統合緩和解析とプレシジョンパリアティブケア

6月21日(土) 9:30~11:30 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

オーガナイザー：成田 年(星薬科大学薬理学研究室)
座長：光永 修一(国立がん研究センター先端医療開発センターバイオマーカー探索 TR 分野)
成田 年(星薬科大学薬理学研究室)

S3-1 がん悪液質病態の分子機構

光永 修一(国立がん研究センター先端医療開発センターバイオマーカー探索 TR 分野)

S3-2 がん悪液質病態におけるストレスネットワーク異常を基調とした末梢-脳連関解析

須田 雪明(星薬科大学薬理学研究室、国立がん研究センター研究所・がん患者病態生理研究ユニット)

S3-3 大規模データ解析によってがん悪液質を捉えなおす

河岡 慎平(東北大学加齢医学研究所生体情報解析分野・京都大学医生物学研究所臓器連関研究チーム)

S3-4 「事件は現場で起きている」を研究につなげ、実装する取り組み

石木 寛人(国立がん研究センター中央病院緩和医療科)

シンポジウム 4

臨床現場-大学共同研究の実践～日常の疑問をエビデンスとするために～

6月21日(土) 12:55~14:25 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

オーガナイザー：宮本 朋佳(兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野)
山田 正実(大阪府済生会野江病院薬剤科)
座長：宮本 朋佳(兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野)
山田 正実(大阪府済生会野江病院薬剤科)

S4-1 臨床の疑問から論文化までにおける大学との関わり方の実例

中村 豪志(兵庫医科大学病院薬剤部)

S4-2 大学発の臨床現場-大学共同研究の進め方の実例

宮本 朋佳(兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野)

S4-3 臨床現場-大学共同研究の実践 ～病院薬剤師の立場から～

石川 寛(静岡県立静岡がんセンター)

S4-4 臨床現場-大学共同研究の実践～大学教員の立場から～

田中 怜(湘南医療大学薬学部医療薬学科、東京理科大学薬学部薬学科)

S4-5 臨床現場-大学共同研究の実践にむけた組織づくり

鍛冶園 誠(岡山市立市民病院薬剤部)

シンポジウム 5

患者の意思決定に関する医療者の支援について再考する ～その人のココロに寄り添うとは～

6月21日(土) 9:30～11:30 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

オーガナイザー：岸本 真(霧島市立医師会医療センター薬剤部)
座長：岸本 真(霧島市立医師会医療センター薬剤部)
濱中 努(社会医療法人三栄会ツカザキ病院薬剤科)

S5-1 病院勤務医の立場から考える意思決定支援・ACPとは？

日下部明彦(横浜市立大学医学部医学科総合診療医学)

S5-2 患者の求めるACPとは ～患者・家族の立場から～

山口 育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML)

S5-3 シェアード・ディシジョン・メイキング(SDM)のプロセスから考える意思決定支援とは

別所 千枝(JA広島厚生連尾道総合病院薬剤科)

S5-4 保険薬局薬剤師が関わる意思決定支援とは

中島 美紀((有)キムラ薬局本店)

シンポジウム 6

レアだけど困ったオピオイド関連副作用への臨床経験と最新エビデンス

6月21日(土) 15:55～17:55 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

オーガナイザー：山本 泰大(小牧市民病院薬局)
佐藤 淳也(湘南医療大学薬学部)
座長：山本 泰大(小牧市民病院薬局)
佐藤 淳也(湘南医療大学薬学部)

S6-1 レアではない、実は多い“せん妄”

佐藤 淳也(湘南医療大学薬学部薬物治療学研究室)

S6-2 レアなのか、オピオイドが関連する掻痒、投与時に注意する皮膚トラブル

賀茂 佳子(静岡県立静岡がんセンター薬剤部)

S6-3 レアだけど、患者にとっては苦痛なコリン様症状(口渇&排尿障害)

深井 雄太(北海道がんセンター薬剤部)

S6-4 レアであり、鑑別が難しいミオクロヌス&セロトニン症候群

山本 泰大(小牧市民病院薬局)

シンポジウム 7

薬剤師が開拓する地域における緩和薬物療法・在宅医療の推進

6月21日(土) 9:30~11:30 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302 会議室)

オーガナイザー：板井 進悟(金沢大学附属病院薬剤部/医療安全管理部)
枝廣 茂樹(千代町薬局)
座長：板井 進悟(金沢大学附属病院薬剤部/医療安全管理部)
塩川 満(東京女子医科大学病院薬剤部)

S7-1 地域病院に出向し抽出した緩和医療領域の課題と薬剤師の取り組み

板井 進悟(金沢大学附属病院薬剤部/医療安全管理部)

S7-2 山口県における緩和ケアの現状と課題 ~在宅、地域連携普及に向けた認定薬剤師の関わり~

枝廣 茂樹(千代町薬局)

S7-3 緩和ケアと地域薬学ケアのヒント3つ、地域の保険薬局や医療・介護職等誰とでも連携するため

工藤 信孝(株式会社サン薬局協園薬局)

S7-4 地域の薬局で緩和在宅を開拓していく中で、感じた緩和在宅における薬局薬剤師の役割と課題

神崎 洋平(のだ薬局)

S7-5 薬剤師が提供すべき基本的緩和ケアとは

笠原 庸子(秋本クリニック地域医療連携室)

シンポジウム 8

薬学生に対する緩和ケア教育の現状と課題

6月21日(土) 12:55~14:25 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302 会議室)

オーガナイザー：藤村 昭太(自治医科大学附属病院薬剤部)
小林 星太(かがやきクリニック・サードベース診療所・北陸大学薬学部)
座長：藤村 昭太(自治医科大学附属病院薬剤部)
小林 星太(かがやきクリニック・サードベース診療所・北陸大学薬学部)

S8-1 実務実習生に対する病院での緩和ケア教育

藤本 英哲(県立広島病院薬剤科)

S8-2 薬学生に対する保険薬局での緩和ケア教育

田中 里佳(株式会社スギ薬局阪神調剤営業本部阪神ブロック)

S8-3 薬学部における緩和ケアの実践的講義プログラム

小林 星太(かがやきクリニック・サードベース診療所・北陸大学薬学部)

S8-4 Toutes les grandes personnes ont d'abord été des enfants. (Mais peu d'entre elles s'en souviennent.)

儀賀 理暁(埼玉医科大学総合医療センター緩和医療科・呼吸器外科)

シンポジウム 9

オピオイド受容体をターゲットとした新規治療戦略を探る —臨床応用に繋がる基礎研究の最前線—

6月21日(土) 15:55~17:25 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302 会議室)

オーガナイザー：藤田和歌子(順天堂大学薬学部)
徳山 尚吾(神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)
座長：藤田和歌子(順天堂大学薬学部)
徳山 尚吾(神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)

S9-1 オピオイド受容体の二量体形成と副作用発現への関与

藤田和歌子(順天堂大学薬学部薬物治療学分野)

S9-2 うつ病や不安障害におけるオピオイドδ受容体の役割

斎藤 顕宜(東京理科大学薬学部薬理学研究室)

S9-3 ストレス負荷によるオピオイド受容体の変容

徳山 尚吾(神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)

S9-4 オピオイド受容体に特異的に作用するアゴニストの創製

斎藤 毅(筑波大学医学医療系/国際統合睡眠医科学研究機構)

シンポジウム 10

薬剤師のチーム医療によるがん患者への精神科的アプローチの基礎・応用・実践

6月22日(日) 10:15~11:45 第2会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 国際会議室)

オーガナイザー：加藤 剛(所沢慈光病院薬剤部、所沢市薬剤師会)
土井 信幸(高崎健康福祉大学薬学部地域医療薬学研究室)
座長：加賀谷 肇(湘南医療大学薬学部)
坪内 清貴(金沢大学附属病院薬剤部)

S10-1 がん治療における精神症状と薬剤師の役割 —ゲートキーパーとしての視点と処方提案の実践—

菅野ゆみか(千葉県がんセンター薬剤部)

S10-2 ACP って本当にだれがいつするの？

池田里江子(BFC 株式会社ふれあい薬局飯能店、埼玉県薬剤師会、日本薬剤師会)

S10-3 地域包括ケアシステムにおける薬剤師のがん患者への精神的アプローチのプロフェッショナリズムについて考える

土井 信幸(高崎健康福祉大学薬学部地域医療薬学研究室)

シンポジウム 11

患者主体の痛み管理：医療用麻薬の自己管理を再考する

6月22日(日) 10:15~11:45 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

オーガナイザー：龍 恵美(長崎大学病院薬剤部)
座長：龍 恵美(長崎大学病院薬剤部)
山本 泰大(小牧市民病院)

S11-1 医療用麻薬自己管理マニュアル概説 ～痛みのセルフケアは薬剤師の理解から～

的場 元弘(東京西徳洲会病院)

S11-2 当院における医療用麻薬の自己管理の現状

金子 健(慶應義塾大学病院)

S11-3 医療用麻薬の自己管理を考える –患者中心の疼痛管理を目指して–

宮永 圭(長崎大学病院薬剤部)

S11-4 医療用麻薬の適正使用推進について

藤井 哲朗(厚生労働省医薬局監視指導・麻薬対策課)

パネリスト 野田 浩志(厚生労働省医薬局監視指導・麻薬対策課)

シンポジウム 12

シームレスな連携を通じた口腔支持療法の未来 ～薬剤師のプロフェッショナルネットワークを築く～

6月22日(日) 13:30~15:30 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

オーガナイザー：吉田 謙介(東京薬科大学薬学部医薬品安全管理学教室)
渡邊 真一(松山大学薬学部医療薬学科)
座長：杉浦 宗敏(東京薬科大学薬学部医薬品安全管理学教室)
渡邊 真一(松山大学薬学部医療薬学科)

S12-1 口腔支持療法におけるこれまでのネットワーク構築とシンポジウム概要について

吉田 謙介(東京薬科大学医薬品安全管理学教室)

S12-2 口腔粘膜病における唾液中炎症性メディエーターの同定、大学教員としてできること

清海 杏奈(東京薬科大学薬学部医薬品安全管理学教室)

S12-3 外来がん患者のアンケートから見えた患者の口腔内の実態、薬局薬剤師としてできること

白戸 達介(株式会社インファーマシーズアイン薬局北里大学メディカルセンター店)

S12-4 多施設共同前向きコホート研究での取り組み、病院薬剤師としてできること

星野 直人(新潟大学歯学総合病院薬剤部)

S12-5 薬-薬-薬連携における口腔支持療法のネットワーク構築

渡邊 真一(松山大学薬学部医療薬学研究室)

シンポジウム 13

緩和領域における睡眠管理とその重要性

6月22日(日) 10:15~11:45 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

オーガナイザー：南雲 康行(国立がん研究センター研究所がん患者病態生理研究ユニット)
座長：南雲 康行(国立がん研究センター研究所がん患者病態生理研究ユニット)
濱田 祐輔(星薬科大学薬理学研究室)

S13-1 レム睡眠とその破綻の作用やメカニズム

林 悠(東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻)

S13-2 緩和領域における睡眠管理のための薬剤指導の現状

武井 大輔(埼玉県立病院機構埼玉県立がんセンター薬剤部)

S13-3 睡眠状態が疼痛疾患やがん疾患に及ぼす影響の基礎科学的理解

南雲 康行(国立がん研究センター研究所がん患者病態生理研究ユニット)

S13-4 がん患者における睡眠管理と介入方法～精神腫瘍領域の視点から～

貞廣 良一(国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科)

シンポジウム 14

がん患者への带状疱疹治療における患者リスク低減プログラムの開発 ～基礎薬学を活用した個別最適化の実践～

6月22日(日) 13:30~15:30 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

オーガナイザー：杉山奈津子(国際医療福祉大学薬学部)
小茂田昌代(医療法人徳洲会千葉西総合病院薬剤部)
座長：小茂田昌代(医療法人徳洲会千葉西総合病院薬剤部)
岸 達生(公益財団法人日本薬剤師研修センター)

S14-1 固形がん患者に生じた带状疱疹に対して適切な治療薬を病態から考える

平川 聡史(聖隷浜松病院支持医療科)

S14-2 化学構造式から考える带状疱疹治療薬

紺野 奇重(国際医療福祉大学薬学部薬学科医薬品化学分野)

S14-3 がん患者の带状疱疹治療に伴うリスクとは

宗像 千恵(国際医療福祉大学福岡薬学部、高邦会高木病院薬剤部)

S14-4 带状疱疹治療薬による急性腎障害を俯瞰する -機序・疫学・臨床-

近藤 悠希(熊本大学大学院生命科学研究部薬物治療設計学分野(臨床薬理学))

S14-5 带状疱疹治療薬アカデミック・ディテールによる患者リスク低減プログラムの実践

杉山奈津子(国際医療福祉大学薬学部)

シンポジウム 15

μ-オピオイド受容体の機能多様性と臨床応用

6月22日(日) 10:15~11:45 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302 会議室)

オーガナイザー：葛巻 直子(星薬科大学薬理学研究室)
座長：葛巻 直子(星薬科大学薬理学研究室)
池田 龍二(宮崎大学医学部附属病院薬剤部)

S15-1 オピオイド鎮痛薬の選択とそれに伴う反応の多様性

松本 禎久(がん研有明病院緩和治療科)

S15-2 周術期におけるオピオイド鎮痛薬の使用と免疫抑制

長谷川麻衣子(千葉大学大学院医学研究院麻酔科学研究領域)

S15-3 末梢性μ-オピオイド受容体とがんの進展

高橋 秀聡(国立がん研究センター中央病院頭頸部・食道内科)

S15-4 末梢性オピオイド受容体を介した新規の神経-免疫-腫瘍関連機構の理解： 免疫チェックポイント機構とオピオイドシグナルの細胞内クロストーク

葛巻 直子(星薬科大学薬理学研究室)

シンポジウム 16

在宅医療における医療用麻薬の24時間供給態勢に向けて ～薬局間連携の可能性は～

6月22日(日) 13:30~15:30 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302 会議室)

オーガナイザー：串田 一樹(昭和薬科大学、HIP研究会)
金子 健(慶應義塾大学病院)
座長：串田 一樹(昭和薬科大学、HIP研究会)
金子 健(慶應義塾大学病院)

S16-1 「在宅医療における医療用麻薬の24時間供給体制」 同一法人9薬局の薬局間連携

木村 雅彦(あけぼのファーマシーグループあけぼの薬局)

S16-2 有志による薬局間連携の必要性和実践事例

佐々木 健(サンロクゴ訪問薬局目黒店)

S16-3 在宅療養支援診療所薬剤師からみた地域の薬局間連携

齊藤 直裕(三育会新宿ヒロクリニック)

S16-4 在宅医療を継続するための医薬品供給問題点から病院と地域薬局の連携を考える

門谷 靖裕(湘南鎌倉総合病院薬剤部)

シンポジウム 17

腸内細菌叢研究からがん緩和医療を考える

6月22日(日) 10:15~11:45 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

オーガナイザー：吉澤 一巳(東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)

宮野加奈子(順天堂大学薬学部薬物治療学研究室)

座長：吉澤 一巳(東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)

宮野加奈子(順天堂大学薬学部薬物治療学研究室)

S17-1 ファーマコマイクロバイオミクスから考える腸内細菌の可能性

國澤 純(医薬基盤・健康・栄養研究所ヘルス・メディカル微生物研究センター)

S17-2 漢方薬 半夏瀉心湯の有効性に腸内細菌叢は関与するのか？

ー頭頸部がん化学放射線療法による口腔粘膜炎モデル動物を用いた解析ー

宮野加奈子(順天堂大学薬学部薬物治療学研究室)

S17-3 がん関連疲労に対する栄養療法と腸内細菌からのアプローチ

吉澤 一巳(東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)

ワークショップ

ワークショップ 1

がん患者に関わる薬剤師のための精神心理的ケア

～医療用麻薬に抵抗感のある患者の精神心理を配慮したかわり～

6月21日(土) 9:30～11:30 第9会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 105 会議室)

- オーガナイザー：佐伯 朋哉 (横浜南共済病院)
工藤 浩史 (国立国際医療研究センター病院)
田中 康裕 (輝山会記念病院)
座長：田中 康裕 (輝山会記念病院)
山崎 朋子 (栃木県立がんセンター)
ファシリテーター：高田 知世 (国立病院機構栃木医療センター)
濱野 愛里 (国立病院機構災害医療センター)
藤本 泰輔 (アインファーマシーズ、アイン薬局鶴見店)
渡辺 裕貴 (日本調剤市大福浦薬局)
武智 宣佳 (四国がんセンター)
森本 雅子 (JCHO 東京山手メディカルセンター薬剤部)
土屋亜祐美 (国立国際医療研究センター病院)
原田 優 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院)

ワークショップ 2

かんわ Basic Open Café 2025 Produced by TSOP All Japan Group

6月21日(土) 12:55～13:55 第9会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 105 会議室)

- オーガナイザー：伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)
周治由香里 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)
嶋 亮太 (慶應義塾大学病院薬剤部副主任)
前田 桂吾 (日本調剤株式会社在宅医療部)
座長：大野 朋子 (ak ホールディングス株式会社上永谷薬局)
宮田 祥一 (東邦大学医療センター大森病院薬剤部)
ファシリテーター：三羽 尚子 (大阪府済生会野江病院)
鳥井 小莉 (大阪府済生会野江病院)
後藤 咲香 (岐阜大学医学部附属病院)
松下 葵 (公立豊岡病院組合立豊岡病院)
井上 玲香 (姫路聖マリア病院)
神田 友江 (大垣市民病院)
慶 元箕 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)
日高あづみ (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター薬剤部)
有馬 亜希 (東邦大学医療センター大森病院薬剤部)
原田 寿 (日本調剤株式会社在宅医療部)
勝俣はるみ (IMS グループ医療法人財団明理会明理会中央総合病院)
葛巻 直子 (星薬科大学薬理学研究室)

ワークショップ 3

～初学者のための～経験者と一緒に学ぼう！注射の麻薬処方せん

6月21日(土) 14:30～16:30 第9会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 105 会議室)

- オーガナイザー：大野 朋子 (株式会社 ak ホールディングス上永谷薬局・ak 薬局西横浜在宅調剤センター店)
餅原 弘樹 (いぶきの森のぞみの花クリニック)
- 座長：大野 朋子 (株式会社 ak ホールディングス上永谷薬局)
餅原 弘樹 (いぶきの森のぞみの花クリニック)
- ファシリテーター：細川 泰博 (クラフト株式会社教育研修部)
江口真理子 (株式会社大賀薬局野芥調剤店)
村井 扶 (株式会社ゆそえるあけぼの薬局)
井出 良太 (株式会社エム・エス経営企画サンヨー薬局グループ)
松井 美月 (株式会社 ak ホールディングス西横浜在宅調剤センター店)
小澁 朝子 (株式会社 ak ホールディングス上永谷薬局)

ワークショップ 4

がん患者の代謝変化と栄養管理について、多職種の視点を交えてディスカッションするワークショップ

6月22日(日) 9:30～11:30 第9会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 105 会議室)

- オーガナイザー：鈴木 慶介 (台東区立台東病院・老人保健施設千束)
茂木 孝裕 (草加市立病院)
伊藤聡一郎 (公立陶生病院)
相良 克海 (吉川中央総合病院)
二村 昭彦 (藤田医科大学七栗記念病院)
- 座長：鈴木 慶介 (台東区立台東病院・老人保健施設千束)
茂木 孝裕 (草加市立病院)
- ファシリテーター：吉田 貞夫 (ちゅうざん病院)
熊谷 琴美 (愛知学院大学)
伊東 弘樹 (大分大学医学部付属病院)
熊谷 岳文 (株式会社ファーマシィすこやか薬局)
辰巳 真穂 (加古川中央市民病院)
片山 弘美 (碧南市民病院)
川床 優子 (相良病院)
平田 一耕 (亀田クリニック薬剤室・亀田総合病院薬剤部)
永瀬 怜司 (済生会横浜市東部病院)
海老原英之 (帝京大学大学院)

ワークショップ 5

かんわ cafe Produced by TSOP All Japan Group

6月22日(日) 13:30~15:30 第9会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 105 会議室)

オーガナイザー：伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター)

金子 健(慶應義塾大学病院)

山田 正実(大阪府済生会野江病院薬剤科)

石原 正志(岐阜大学医学部附属病院)

辻井 聡容(公立豊岡病院組合立豊岡病院薬剤部)

座長：岸田 悦子(日本医科大学付属病院薬剤部)

長久保久仁子(ミキ薬局田端店)

ファシリテーター：林 隼輔(東京慈恵会医科大学附属柏病院)

中川 隼一(東京慈恵会医科大学附属柏病院)

加藤あゆみ(日本医科大学付属病院薬剤部)

佐伯 朋哉(横浜南共済病院薬剤科)

佐久間詠理(医療法人社団淳友会わたホームクリニック)

結城 奈美(東京都済生会中央病院薬剤部)

地丸 裕美(大阪府済生会野江病院薬剤科)

原 伸輔(大阪大学医学部附属病院)

山田麻里子(大阪府済生会茨木病院)

永治正太郎(岐阜県立多治見病院)

中永かおり(公立豊岡病院組合立豊岡病院)

井上 昇(高山赤十字病院)

辻 若子(公立学校共済組合東海中央病院)

山賀 亮祐(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

岡田亜希子(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

周治由香里(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

阿久井千亜紀(兵庫医科大学病院薬剤部)

Session (主題)

Session (主題) 1

外来がん疼痛患者へのかかわり方～緩和ケア領域における薬剤師外来～

6月21日(土) 14:55~15:55 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

オーガナイザー：山田 正実(大阪府済生会野江病院薬剤科)

木村 健(兵庫医科大学病院薬剤部)

座長：飯田 真之(神戸大学医学部附属病院薬剤部)

山田 正実(大阪府済生会野江病院薬剤科)

T1-1 緩和ケア外来における薬剤師の取り組みと今後の薬剤師連携について

大音三枝子(神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部)

T1-2 外来におけるオピオイド鎮痛薬導入と薬局連携の取り組み
～オピオイド指導ならびに症状評価の統一と連携～

山本 泰大(小牧市民病院薬局)

T1-3 オピオイド導入患者への薬剤師によるテレフォンフォローアップと診察前面談

地丸 裕美(大阪府済生会野江病院薬剤科)

T1-4 外来の緩和ケアにおいて薬剤師が関わることの有用性と持続可能性

大野凜太郎(済生会宇都宮病院薬剤部)

Session (主題) 2

きっと役にたつ！薬剤師が関わるアロマセラピー

6月21日(土) 9:30~10:30 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

オーガナイザー：大野 瑞穂(東京女子医科大学病院薬剤部)
塩川 満(東京女子医科大学病院薬剤部)
座長：大野 瑞穂(東京女子医科大学病院薬剤部)
宮澤 正幸(藤沢市民病院薬局)

T2-1 アロマセラピーの意義と薬剤師が関わるアロマセラピー
～慢性期医療機関における薬剤師による実践の報告～

佐藤 玲子(長谷川会湘南ホスピタル薬剤科)

T2-2 がん患者とアロマセラピーの実践

林 真一郎(グリーンフラスコ研究所)

T2-3 ホスピスにおけるアロマセラピーの実践

谷村 美希(日本医療伝道会衣笠病院緩和ケア病棟)

T2-4 アロマセラピーと患者との関わり

終末期医療の中でどのようにアロマセラピーが利用できるか。セラピストの立場から・・・

青木 麻依(新横浜リハビリテーション病院リハビリテーション部)

Session (主題) 3

緩和ケアにおける地域連携の推進～研修を通して相互理解を深める～

6月21日(土) 10:30~11:30 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

オーガナイザー：林 隼輔(東京慈恵会医科大学附属柏病院薬剤部)
中川 隼一(東京慈恵会医科大学附属柏病院薬剤部)
座長：大野 朋子(株式会社 ak ホールディングス上永谷薬局)
中川 隼一(東京慈恵会医科大学附属柏病院薬剤部)

T3-1 地域緩和ケアネットワーク研修を活かして～在宅専任4年目の到達点と課題～

関 拓海(あけぼの薬局メディカル店)

T3-2 地域緩和ケアネットワーク研修から地域連携を考える

関 美枝子(アイン薬局久喜本町店)

T3-3 緩和ケアにおける地域連携の推進～研修を通して相互理解を深める～病院薬剤師の視点から

宮崎 百合(横浜市立みなと赤十字病院薬剤部)

T3-4 病院薬剤師が在宅医療の現場を知る～相互理解からはじまる地域連携～

林 隼輔(東京慈恵会医科大学附属柏病院薬剤部)

Session (主題) 4

タペンタドール発売中止後の対応策について

6月21日(土) 14:55~15:55 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

オーガナイザー：佐藤 哲観(静岡県立静岡がんセンター緩和医療科)
田中 怜(湘南医療大学薬学部)
座長：田中 怜(湘南医療大学薬学部)

T4-1 がん疼痛に対する薬物療法 ~タペンタドール発売から中止後、臨床経験からの考察

福永 智栄(姫路赤十字病院緩和ケア内科)

T4-2 タペンタドールの基礎薬理特性

斎藤 顕宜(東京理科大学薬学部薬理学研究室)

T4-3 タペンタドールの穴をどのように埋めるか?

佐藤 哲観(静岡県立静岡がんセンター緩和医療科、緩和ケアチーム)

Session (主題) 5

優秀な薬学的介入事例から学ぶ、緩和薬物療法認定薬剤師取得のための手引き

6月22日(日) 13:30~14:30 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

オーガナイザー：鍛冶園 誠(岡山市立市民病院薬剤部)
土井 真喜(株式会社メディカルシステムネットワーク地域薬局事業部)
座長：鍛冶園 誠(岡山市立市民病院薬剤部)
土井 真喜(株式会社メディカルシステムネットワーク地域薬局事業部)

T5-1 認定試験が求める知識について

鍛冶園 誠(岡山市立市民病院薬剤部)

T5-2 疼痛日記を使用したテレフォンプォロアアップによる保険薬局薬剤師の薬学的介入

松本 光司(クリエイト薬局旭二俣川店)

T5-3 緩和ケア病棟を有さない急性期病院で緩和薬物療法認定薬剤師を取得するまでの道のりと今後の展望

土屋 恵菜(熊本赤十字病院薬剤部)

T5-4 緩和薬物療法認定薬剤師の申請要件および症例報告のポイント

土井 真喜(株式会社メディカルシステムネットワーク地域薬局事業部、
日本緩和医療薬学会認定薬剤師制度委員会)

Session (主題) 6

在宅緩和ケアにおける患者家族との関わりを考える

6月22日(日) 13:30~14:30 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

オーガナイザー：前田 桂吾 (日本調剤株式会社在宅医療部)
座長：前田 桂吾 (日本調剤株式会社在宅医療部)
坂本 岳志 (あけぼの薬局メディカル店)

T6-1 二刀流の緩和ケア医が訪問薬剤師を頼りたくなる「察する力」

廣橋 猛 (永寿総合病院がん診療支援・緩和ケアセンター、博腎会野中医院在宅ケアセンター)

T6-2 訪問看護師が家族とのかかわりの中で注意していること

岩本 ゆり (悠翔会訪問看護事業部)

T6-3 グリーフケアの概念と医療者の関わり

廣岡 佳代 (東京科学大学大学院保健衛生学研究科)

T6-4 患者さんの「生活の場」が「療養の場」となった時に薬剤師ができる事・やるべき事

奈良 健 (サン薬局在宅療養支援部)

メディカルセミナー

メディカルセミナー MS1 高齢者のがん疼痛治療

6月21日(土) 11:45~12:45 第1会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールB)

座長: 塩川 満 (東京女子医科大学病院薬剤部)

演者: 余宮きのみ (広島市立広島市民病院緩和ケア科)

共催: 第一三共株式会社

メディカルセミナー MS2 薬剤師が繋ぐ緩和の輪—薬薬連携や地域を越えたネットワーク、 その中でのゲートキーパーとしての役割—

6月21日(土) 11:45~12:45 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

座長: 石原 正志 (岐阜大学医学部附属病院薬剤部)

演者: 加藤 麻衣 (西日本旅客鉄道株式会社大阪鉄道病院薬剤部)

共催: 塩野義製薬株式会社

メディカルセミナー MS3 薬剤師が知っておきたいがん遺伝子パネル検査 ～がんゲノム医療における薬剤師の役割～

6月21日(土) 11:45~12:45 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302 会議室)

座長: 黒田 一 (東京女子医科大学附属足立医療センター病理診断科)

演者: 中村 康平 (慶應義塾大学医学部がんゲノム医療センター)

共催: 中外製薬株式会社

メディカルセミナー MS4 ガットフレイルをご存知ですか? その概念と対策

6月21日(土) 11:45~12:45 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

座長: 伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

演者: 内藤 裕二 (京都府立医科大学大学院医学研究科生体免疫栄養学講座)

共催: ミヤリサン製薬株式会社

メディカルセミナー MS5 病院薬剤部のロボット化とデジタルパートナーシップ - 薬剤師の真価を発揮する時代へ -

6月21日(土) 11:45~12:45 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長: 上野 敬人 (株式会社ユヤマ学術部)

演者: 橋田 亨 (神戸市立医療センター中央市民病院/神戸学院大学薬学部)

共催: 株式会社ユヤマ

メディカルセミナー MS6

MCI から紡ぐアルツハイマー病診療 - 早期発見と抗アミロイドβ抗体薬が拓く道 -

6月21日(土) 11:45~12:45 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

座長: 斎藤 郁夫 (博慈会記念総合病院薬剤部)

演者: 黒田 岳志 (昭和医科大学医学部内科学講座脳神経内科学部門)

共催: エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

メディカルセミナー MS7

メサドンを上手に使うポイント

6月21日(土) 14:40~15:40 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

座長: 龍 恵美 (長崎大学病院薬剤部注射薬室/麻薬管理室)

演者: 石木 寛人 (国立がん研究センター中央病院緩和医療科)

共催: 帝國製薬株式会社/テルモ株式会社

メディカルセミナー MS8

抗がん剤治療における副作用マネジメントについて

6月21日(土) 14:40~15:40 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302 会議室)

座長: 臼井 悟 (獨協医科大学病院薬剤部)

肺癌患者が安心して治療を続けるための副作用マネジメント

武内 進 (日本医科大学大学院医学研究科呼吸器・腫瘍内科学分野)

肺がん薬物療法における副作用マネジメント~FNと低マグネシウム血症を中心に~

東 加奈子 (東京医科大学病院薬剤部)

共催: 日本化薬株式会社

メディカルセミナー MS9

抗がん剤総合的曝露対策

6月22日(日) 12:15~13:15 第2会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 国際会議室)

座長: 金子 健 (慶應義塾大学病院薬剤部/緩和ケアセンター)

抗がん剤総合的曝露対策の実際一次亜塩素酸による環境対策一

伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部/がん包括診療部)

共催: プログレス株式会社

メディカルセミナー MS10

がんサポーターブケアに使える漢方薬

6月22日(日) 12:15~13:15 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

座長: 鍛冶園 誠 (岡山市立市民病院薬剤部)

演者: 近藤 奈美 (埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科)

共催: 株式会社ツムラ

メディカルセミナー MS11

今求められる 病院運営への薬剤師の視点 ～バイオシミラー導入を中心に～

6月22日(日) 12:15～13:15 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

座長：橋本 雅司(国立病院機構九州医療センター薬剤部)

演者：伊東 弘樹(大分大学医学部附属病院薬剤部)

共催：サンド株式会社

メディカルセミナー MS12

外用鎮痛剤によるがん疼痛管理

～オピオイド, NSAIDs, 鎮痛補助薬の外用剤を知的利用する～

6月22日(日) 12:15～13:15 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

座長：井関 雅子(順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座/順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学)

演者：金井 昭文(北里大学医学部新世紀医療開発センター疼痛学)

共催：久光製薬株式会社

メディカルセミナー MS13

高齢者薬物療法の最新トピックス

～禁忌が改訂されたアセトアミノフェンの活用も含めて～

6月22日(日) 12:15～13:15 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長：塩川 満(東京女子医科大学病院薬剤部)

演者：溝神 文博(国立長寿医療研究センター薬剤部)

共催：あゆみ製薬株式会社

メディカルセミナー MS14

終末期における褥瘡治療の省力化・効率化と患者のQOLを維持する効果的な外用薬治療

6月22日(日) 8:45～9:45 第2会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 国際会議室)

座長：関根 祐介(学校法人東京医科大学東京医科大学病院薬剤部)

演者：古田 勝経(医療法人愛生館小林記念病院褥瘡ケアセンター)

共催：ニプロ株式会社

メディカルセミナー MS15

がん・非がんの疾患別アピランスケアとQOL

—乾癬を含め、薬剤師だからこそできること—

6月21日(土) 11:45～12:45 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

座長：小林 秀樹(東京女子医科大学附属八千代医療センター薬剤部)

演者：舟越 亮寛(亀田総合病院薬剤部)

共催：サンファーマ株式会社

スポンサードセミナー

スポンサードセミナー

がん遺伝子パネル検査とがんゲノム医療コーディネーターの役割

6月21日(土) 14:40~15:40 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

座長: 伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

がんゲノム医療の現状と展望-RNA パネルへの期待を含めて-

深田 一平 (がん研究会有明病院ゲノム診療部)

がんゲノム医療における薬剤師の新たな役割

山崎 真澄 (がん研究会有明病院ゲノム診療部)

共催: コニカミノルタ REALM 株式会社

厚生労働省事業セミナー

厚生労働省事業セミナー

ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・ 医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業 セミナー

6月22日(日) 10:05~11:05 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

座長: 井関 雅子 (順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座)

子宮頸がんの予防と治療 - 化学療法を中心とした最近の動向 -

寺尾 泰久 (順天堂大学医学部産婦人科学講座)

順天堂大学医学部附属順天堂医院

ミニセミナー

ミニセミナー

安全で効率的な抗がん薬の調製・投与について考えよう! ~体験型ミニセミナー~

6月21日(土) 16:45~17:45 第9会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 105 会議室)

薬剤調製・投与クローズドシステム
ネオシールドを触ってみよう!

山賀 亮祐 (東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部)

共催: 株式会社ジェイ・エム・エス

□頭発表

□頭発表 1 症状緩和・副作用

6月21日(土) 12:55~13:55 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

座長: 佐藤 淳也(湘南医療大学薬学部)
杉浦 宗敏(東京薬科大学)

○1-1 がん患者におけるオピオイド鎮痛薬のレスキュー使用回数と依存症のリスク因子に関する検討

○江草 徳幸、吉田 玲、岡野 愛子、檜垣 麻友美、藤原 俊輔、埋橋 賢吾、向井 一樹、
白井 敦史、平井 俊明、磯貝 明彦、中島 恵子

広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院 薬剤部

○1-2 ナルデメジンの効果及び副作用等に関する各遺伝子多型の後方視的解析

○森 京子¹⁾、田中 怜²⁾、佐藤 哲¹⁾、賀茂 佳子¹⁾、佐藤 哲観³⁾、秋山 靖人⁴⁾、浦上 研一⁵⁾、
大浪 澄子⁵⁾、水野 魔己⁶⁾、佐藤 淳也²⁾、篠 道弘¹⁾

¹⁾静岡県立静岡がんセンター 薬剤部、²⁾湘南医療福祉大学 薬学部、³⁾静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科、⁴⁾静岡県立静岡がんセンター 研究所 免疫治療研究部、⁵⁾静岡県立静岡がんセンター 研究所 診断技術開発研究部、⁶⁾静岡県立静岡がんセンター HOPE 事務局

○1-3 薬局薬剤師におけるケミカルコーピングの認知度と関連する経験に関する実態調査

○佐藤 由美^{1,9)}、土井 真喜²⁾、飛鷹 範明^{3,9)}、中村 和代^{4,9)}、下村 翔一⁵⁾、金辻 純子⁶⁾、
横山 晴子^{7,9)}、国分 秀也^{8,9)}

¹⁾まちほけ薬局名古屋医療センター前店、²⁾株式会社メディカルシステムネットワーク、³⁾愛媛大学医学部附属病院薬剤部、⁴⁾静岡県立総合病院薬剤部、⁵⁾くろみ薬局兵庫医大店、⁶⁾みやこ薬局薬大前店、⁷⁾株式会社アシスト、⁸⁾湘南医療大学薬学部、⁹⁾日本緩和医療薬学会研究推進委員会

○1-4 がん悪液質に対するアナモレリンの効果予測因子の検討

○土屋 直彦¹⁾、池上 悦子¹⁾、小山 茂^{1,2)}

¹⁾長野赤十字病院 薬剤部、²⁾長野赤十字病院 呼吸器内科

○1-5 癌悪液質患者における OATP1B 活性の低下と変動要因の解明

○炭本 隆宏¹⁾、田中 遼大¹⁾、鈴木 陽介²⁾、小田 絢子²⁾、末繁 嘉朗¹⁾、白岩 健¹⁾、
龍田 涼佑¹⁾、大津 智³⁾、緒方 正男³⁾、大野 恵子²⁾、伊東 弘樹¹⁾

¹⁾大分大学医学部附属病院 薬剤部、²⁾明治薬科大学 薬剤情報解析学、³⁾大分大学医学部 腫瘍・血液内科学講座

□頭発表 2 オピオイド鎮痛薬・管理運営

6月21日(土) 13:55~14:55 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

座長: 竹迫 秀和(鹿児島市立病院薬剤部)
田口 真穂(横浜薬科大学レギュラトリーサイエンス研究室)

○2-1 遺伝子多型の違いによるタペンタドールの効果に関する後方視的相関解析

○賀茂 佳子¹⁾、田中 怜²⁾、森 京子¹⁾、佐藤 哲¹⁾、佐藤 哲観³⁾、秋山 靖人⁴⁾、浦上 研一⁵⁾、
大浪 澄子⁵⁾、水口 魔己⁶⁾、佐藤 淳也²⁾、篠 道弘¹⁾

¹⁾静岡県立静岡がんセンター 薬剤部、²⁾湘南医療大学 薬学部、³⁾静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科、
⁴⁾静岡県立静岡がんセンター研究所 免疫治療研究部、⁵⁾静岡県立静岡がんセンター研究所 診断技術開発研究部、⁶⁾静岡県立静岡がんセンター HOPE 事務局

○2-2 オピオイド注射セットオーダーの利用がオピオイド適正使用に及ぼす影響

○鈴木 宣雄¹⁾、木村 美智男¹⁾、神田 友江¹⁾、大塚 崇史¹⁾、川口 智里²⁾、今村 江美²⁾、中島 治典³⁾

¹⁾ 大垣市民病院 薬剤部、²⁾ 大垣市民病院 看護部、³⁾ 大垣市民病院 緩和医療科

○2-3 医療用麻薬管理業務の効率化の取り組み (麻薬管理支援システムによる補助簿廃止の試み)

○諸井 良江、木下 敦子、山村 康比古、藤波 薫、肥沼 理映子、後藤 総太郎、松尾 拓馬、添田 侑希、平野 明穂

東京都立駒込病院 薬剤科

○2-4 当院における緩和ケアチーム薬剤師による外来オピオイド使用患者への薬学的介入と評価

○伊藤 聡一郎^{1,2)}、深津 昌弘¹⁾、吉田 ひかり^{1,2)}、有馬 絵美^{1,2)}、郷治 久美¹⁾、山田 哲也¹⁾、水元 弥生²⁾、熊澤 尚美²⁾、萩本 聡³⁾、澤田 憲朗³⁾

¹⁾ 公立陶生病院医療技術局薬剤部、²⁾ 公立陶生病院緩和ケアセンター、³⁾ 公立陶生病院緩和ケア内科

○2-5 全国における外来がん化学療法に関する薬薬連携状況と推進要因の解析

○鳥羽々 実希、田口 真穂、菅原 里乃彩、清水 彌椰、舟木 夕貴、金田 昌之、山田 博章、小出 彰宏

横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室

□頭発表 3 基礎研究

6月21日(土) 16:00~17:00 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303会議室)

座長：今井 哲司(和歌山県立医科大学薬学部医療開発薬学研究室)

宮野加奈子(順天堂大学薬学部薬物治療学)

○3-1 オキサリプラチン誘発冷感過敏反応軽減へ向けた時間薬物療法の応用

○瀬戸 祥弘¹⁾、小野塚 宙大¹⁾、岡崎 史泰²⁾、井上 大輔¹⁾、藤 秀人¹⁾

¹⁾ 富山大学 学術研究部薬学・和漢系 医療薬学研究室、²⁾ 第一薬科大学 薬学部 薬物解析学分野

○3-2 疼痛刺激により遊離される神経ペプチドが乳がん増殖を促進する

○瀧瀬 示穂^{1,2)}、眞壁 一志^{1,2,3)}、成田 道子²⁾、吉澤 拓海^{1,2,4)}、後藤 佳歩^{1,2)}、大関 航生^{1,2)}、須田 雪明^{1,2)}、南雲 康行²⁾、葛巻 直子^{1,2)}、成田 年^{1,2)}

¹⁾ 星薬科大学 薬理学研究室、²⁾ 国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究ユニット、³⁾ がん研究会 有明病院 薬剤部、⁴⁾ 東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室

○3-3 実験的モルヒネ主作用および副作用への選択的 GSK3 阻害薬の効果

○北中 純一¹⁾、北中 順恵^{1,2)}、仲井 聖典¹⁾、濱名 貴大¹⁾、藤井 舞²⁾、松田 健太郎¹⁾、津嶋 祐一郎²⁾、湯瀬 祥¹⁾、富田 和男³⁾、五十嵐 健人³⁾、佐藤 友昭³⁾

¹⁾ 兵庫医科大学 薬学部 医療薬学科 薬物中毒治療学研究室、²⁾ 兵庫医科大学 医学部 薬理学講座、³⁾ 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 歯科応用薬理学分野

○3-4 3次元培養細胞を用いた EGFR-TKI による皮膚障害発症メカニズムの検討

○佐野 和美、小野塚 真理、杉山 佳穂、田中 愛斗

湘南医療大学 薬学部

口頭発表 4 オピオイド鎮痛薬・症状緩和

6月21日(土) 17:00~18:00 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303 会議室)

座長: 増田多加子(東京薬科大学薬学部薬学実務実習教育センター)
鳥越 一宏(湘南医療大学)

04-1 がん患者におけるオピオイド鎮痛薬長期使用となる背景因子に関する検討

○中村 豪志^{1,3)}、宮本 朋佳²⁾、島袋 佐紀^{1,3)}、野間 千尋^{1,3)}、佐伯 彩乃³⁾、乾 貴絵³⁾、土井 陽子³⁾、廣瀬 宗孝³⁾、田中 邦佳¹⁾、桂木 聡子²⁾、木村 健¹⁾

¹⁾ 兵庫医科大学病院 薬剤部、²⁾ 兵庫医科大学 薬学部、³⁾ 兵庫医科大学病院 緩和ケアセンター

04-2 薬剤師におけるオピオイド換算比に関する全国調査

○武井 大輔¹⁾、西村 瑠美³⁾、沖崎 歩^{2,4)}、葛巻 直子^{2,5)}、松本 禎久^{2,6)}、里見 絵理子^{2,3)}

¹⁾ 埼玉県立がんセンター 薬剤部、²⁾ 日本がんサポーターシップケア学会 痛み部会、³⁾ 国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、⁴⁾ 株式会社カケハシ、⁵⁾ 星薬科大学 薬理学研究室、⁶⁾ がん研究会有明病院 緩和治療科

04-3 Enfortumab Vedotin 単剤療法の有害事象発現リスク因子評価と緩和医療薬学的観点からの一考察

○佐藤 汐莉¹⁾、慶 元箕^{1,2)}、山賀 亮佑¹⁾、多田 聡子¹⁾、伊東 俊雅^{1,2)}

¹⁾ 東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部、²⁾ がん包括診療部 緩和ケア室

04-4 がん悪液質患者におけるアナモレリンの投与中止と免疫栄養指数の関連:単施設後ろ向き研究

○福井 愛子、太田 涼介、平田 敦士

近畿大学奈良病院 薬剤部

04-5 終末期患者の退院前カンファレンスに病院薬剤師が参加できていない原因についてのアンケート調査

○平井 俊明¹⁾、土屋 貴²⁾、宮崎 百合³⁾、萬谷 摩美子⁴⁾、山中 幸典⁵⁾、江口 真理子⁶⁾、原田 奈津子¹⁾、仁木 一順^{8,12)}、近藤 匡慶^{9,12)}、内田 まよこ^{10,12)}、高瀬 久光^{11,12)}

¹⁾ JA 広島総合病院 薬剤部、²⁾ 地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市立こども病院 薬剤部、³⁾ 横浜市立みなと赤十字病院、⁴⁾ 医療法人愛和会愛和病院薬局、⁵⁾ イワオ薬局 日赤病院前ミタス伊勢店、⁶⁾ 大賀薬局 野芥調剤店、⁷⁾ 医療法人平和の森ピースホームケアクリニック、⁸⁾ 大阪大学大学院薬学研究科、⁹⁾ 日本医科大学 多摩永山病院薬剤部、¹⁰⁾ 同志社女子大学薬学部、¹¹⁾ 順天堂大学医学部附属病院浦安病院薬剤科、¹²⁾ 日本緩和医療薬学会 先端学術緩和医療薬学タスクフォース

口頭発表 5 オピオイド鎮痛薬

6月21日(土) 12:55~13:55 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長: 中村 和代(静岡県立総合病院)
川上 和宜(がん研究会有明病院薬剤部)

05-1 悪性腸腰筋症候群に伴う難治性疼痛に対するメサドン投与症例の検討

○佐藤 哲観^{1,4)}、福富 晃¹⁾、川村 泰一¹⁾、佐藤 哲²⁾、賀茂 佳子^{2,4)}、若林 茜^{2,4)}、宮口 貴守^{2,4)}、鈴木 知美^{3,4)}、萩谷 翔太^{3,4)}、田中 怜⁵⁾

¹⁾ 静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科、²⁾ 静岡県立静岡がんセンター 薬剤部、³⁾ 静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター、⁴⁾ 静岡県立静岡がんセンター 緩和ケアチーム、⁵⁾ 湘南医療大学 薬学部

05-2 オピオイド投与に抵抗がある患者に対して疼痛コントロールが成功した一例

○大谷 拓也、岩川 悟、荘山 咲智子、千葉 愛珠、室岡 邦彦、高瀬 久光

順天堂大学医学部附属浦安病院

O5-3 低カルシウム血症をきたしたメサドン使用患者に関する症例報告 ～重篤なQT延長の離脱への経緯～

○見目 英継¹⁾、宮澤 正幸¹⁾、佐伯 美奈子²⁾、喜古 康博¹⁾

¹⁾ 藤沢市民病院 薬局、²⁾ 藤沢市民病院 緩和ケア内科

O5-4 フェンタニル経皮吸収剤の高用量使用に対する患者因子の影響

○谷之木 佑歌、保田 和哉、池田 龍二

宮崎大学医学部附属病院

O5-5 大規模副作用データベース (JADER) を用いたオピオイド鎮痛薬およびチロシンキナーゼ阻害薬の併用に伴う便秘の調査

○菅 裕亮^{1,2,3)}、鯉沼 卓真⁴⁾、国分 秀也⁵⁾、植沢 芳広³⁾

¹⁾株式会社なの花北海道 なの花薬局若草店、²⁾株式会社メディカルシステムネットワーク 薬局事業本部 学術部、³⁾明治薬科大学 薬学部 医療分子解析学研究室、⁴⁾東京薬科大学 薬学部 実務実習教育センター、⁵⁾湘南医療大学 薬学部 臨床薬理学研究室

口頭発表 6 在宅医療

6月21日(土) 13:55～14:55 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長：稲葉 一郎(株式会社ハートフェルト)
土井 真喜(株式会社メディカルシステムネットワーク 地域薬局事業部)

O6-1 ドブタミン塩酸塩注射薬とモルヒネ塩酸塩注射薬の2種持続投与による治療を要する重症心不全患者の退院及び在宅療養にむけて訪問薬剤師が介入した事例

○中村 薫、川崎 博行

北陸クオール株式会社 木田らいふ薬局

O6-2 経口摂取困難な終末期がん患者の在宅診療への移行における薬物治療の実態調査の中間報告

○上原 早織^{1,2)}、鈴木 秀隆¹⁾、加納 大輔¹⁾、五十嵐 隆志¹⁾、鳥越 一宏³⁾

¹⁾国立がん研究センター東病院 薬剤部、²⁾東京医科大学茨城医療センター 薬剤部、³⁾湘南医療大学薬学部 実務実習センター

O6-3 調剤薬局が行う在宅緩和ケアの高度医療機器管理の現状と今後の展開

○隈元 正太郎¹⁾、富吉 紘史¹⁾、下園 理恵¹⁾、佐藤 洸¹⁾、松村 史織¹⁾、馬見塚 勝郎²⁾、中川 洋子³⁾、楠元 俊英¹⁾

¹⁾すずな調剤薬局、²⁾鹿児島市医師会病院 緩和ケア科、³⁾訪問看護ステーションよつば

O6-4 僻地における在宅緩和医療の現実と薬剤師の関わり

○前園 崇仁

有限会社トゥーアローズ 大手町調剤薬局

O6-5 高用量のモルヒネ注射液を要した希少がん「耳下腺上皮筋上皮がん」の在宅・看取りの一例多職種デスカンファから見えてきた末期がん在宅医療の課題

○藤澤 直美^{1,2)}、吉田 祐輔¹⁾、北原 智美¹⁾、白川 文代¹⁾、長島 準子¹⁾、小澤 清香¹⁾、梶岡 美江¹⁾、伊藤 聖美¹⁾、奈良部 智子¹⁾、松宮 彰彦²⁾、小林 清乃²⁾

¹⁾たまプラーザ薬局、²⁾クリニック医庵 センター南

□頭発表 7 地域医療

6月21日(土) 16:00~17:00 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長: 橋村 孝博(めいぶる薬局)
川出 義浩(名古屋市立大学大学院医学研究科)

○7-1 入院患者の医療用麻薬自己管理の現状と課題

○椎崎 正秀¹⁾、渡邊 昭博²⁾

¹⁾ 二日市那珂川病院 薬剤科、²⁾ 二日市那珂川病院 診療部

○7-2 医療用麻薬の納期についての調査

○吉村 光弘、和田 優花、生島 佑起、小野 ゆき子、村岡 淳二

京都田辺中央病院 臨床薬剤部

○7-3 麻薬専用トレーシングレポートの作成と運用

○高子 優子¹⁾、田村 知子²⁾、村上 紘世³⁾、細見 真世¹⁾、波多野 友美¹⁾、澁谷 奈穂¹⁾、
近藤 万友美¹⁾、正置 耕一¹⁾、吉岡 睦展¹⁾

¹⁾ 宝塚市立病院 薬剤部、²⁾ フロンティア薬局宝塚店、³⁾ アイン薬局宝塚店

○7-4 「在宅のくすりについて考える多職種連携の会」での取り組み ～緩和ケアに関するアンケート調査を中心に～

○大原 直己¹⁾、野村 温子²⁾、堀川 俊二¹⁾

¹⁾ 寺岡記念病院 薬剤科、²⁾ 神石高原町立病院 薬剤科

○7-5 がん患者会「はまなすの会」によるがんサポーター養成事業とその役割

○尹 享月¹⁾、小西 麗子²⁾、滋野 彩夏²⁾、熊谷 真衣²⁾、太田 直美³⁾

¹⁾ 五大薬局青山店、²⁾ 摂南大学薬学部臨床薬理学研究室、³⁾ がん患者会 はまなすの会

□頭発表 8 副作用

6月21日(土) 17:00~18:00 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長: 田中 怜(湘南医療大学薬学部医療薬学科)
坂本 岳志(あけぼの薬局 メディカル店)

○8-1 Japanese Adverse Drug Event Report データベースを用いたアセトアミノフェン定 時服用患者における肝関連有害事象の用量依存性と服用期間の影響

○上島 健太郎、西 圭史

日本大学薬学部 薬剤師教育センター

○8-2 オピオイド誘発性便秘症に対する酸化マグネシウム使用時のナルデメジンの追加効果

○星野 良¹⁾、石原 正志¹⁾、渡邊 大地¹⁾、後藤 咲香¹⁾、中矢 姫菜子¹⁾、小林 亮²⁾、
鈴木 昭夫¹⁾

¹⁾ 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部、²⁾ 岐阜薬科大学 先端医療薬学研究室

○8-3 プレガバリン中断にて離脱症状が出現した一例

○仲宗根 千佳、上田 綾佳、黒岩 勇人、塚本 泰彦、石村 愛、眞継 賢一、井上 直也

関西電力病院 薬剤部

○O8-4 eGFRcr と eGFRcys の乖離が大きく NSAIDs の使用を避けた終末期がん患者の 2 症例

○丸田 理恵子、草野 泰輝、佐道 紳一、樋口 則英

長崎みなとメディカルセンター 薬剤部

○O8-5 Zolbetuximab の制吐療法に難渋した症例に対し抗ヒスタミン薬が有効であった一例

○高橋 周平¹⁾、市川 洋一¹⁾、守田 和憲¹⁾、荒毛 祐史美¹⁾、山下 愛子¹⁾、山下 園加¹⁾、
田上 治美¹⁾、三井 士和²⁾

¹⁾ 済生会熊本病院 薬剤部、²⁾ 済生会熊本病院 総合腫瘍科

□頭発表 9 オピオイド鎮痛薬

6月21日(土) 9:30~10:30 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

座長：柏原 由佳(昭和医科大学江東豊洲病院)

大野凜太郎(済生会宇都宮病院薬剤部)

○O9-1 ترامadolから低用量ヒドロモルフォンへのスイッチにより疼痛が改善した 1 症例に関する考察

○野村 太嗣¹⁾、吉川 佳那¹⁾、阪本 真季¹⁾、飯島 郷美¹⁾、小林 久仁¹⁾、白井 雅博²⁾、
伊野 弘基²⁾

¹⁾ ティエス調剤薬局 矢橋店、²⁾ ティエス調剤薬局 甲西店

○O9-2 回腸ストーマ患者に徐放性オピオイド鎮痛薬を投与した一症例

○太田 恵、菅野 浩

済生会横浜市東部病院

○O9-3 メサドンから他剤変更時の鎮痛換算比、および至適変更期間に関する検討

○橋本 直弥、則武 千波夜、近藤 滉子、内田 幸作

愛知県がんセンター 薬剤部

○O9-4 高用量のフェンタニル注をブプレノルフィン注にスイッチし、腹腔神経叢ブロック後にオピオイドを離脱した 1 例

○高橋 智恵子^{1,2)}、東 春奈¹⁾、浅石 健²⁾、菊尾 雅子²⁾、田上 恵子²⁾、佐野 博昭²⁾、
松永 仁綜³⁾、後藤 愛実¹⁾、西原 雅美¹⁾、芦田 明¹⁾

¹⁾ 大阪医科薬科大学病院 薬剤部、²⁾ 大阪医科薬科大学病院 緩和ケアチーム、³⁾ 大阪医科薬科大学病院 呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科

○O9-5 夜間寝返り時の除痛達成が必要だった直腸がん頸椎転移の 1 例: 片側椎前筋群付近へのがん浸潤で患側の側臥位固定となりメサドン導入が著効した経験と考察

○吉本 鉄介¹⁾、酒井 智絵²⁾、奥野 直美²⁾、龍 恵美³⁾、久田 純生¹⁾

¹⁾ JCHO 中京病院 緩和支援治療科、²⁾ 協立総合病院 看護部 緩和ケアチーム、³⁾ 長崎大学 薬剤部 緩和ケアチーム

口頭発表 10 がんに関連する症状緩和

6月21日(土) 10:30~11:30 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

座長: 岡本 明大(三重大学医学部附属病院薬剤部)
濱田 祐輔(星薬科大学薬理学研究室)

○10-1 外来がん化学療法施行患者のがん悪液質の有病率と治療介入の現状および今後の課題

○遠藤 美央、玉木 慎也

KKR 札幌医療センター 薬剤科

○10-2 アナモレリンを投与したがん悪液質患者の抗がん剤投与群と非投与群の有効性の検討

○勝田 雄太^{1,4)}、中西 一志¹⁾、池田 実加¹⁾、塩川 尚恵¹⁾、塩尻 智恵子^{2,4)}、松崎 貴志¹⁾、井上 健男^{3,4)}

¹⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 薬剤部、²⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 看護部、³⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 呼吸器内科、⁴⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 緩和ケアチーム

○10-3 がん悪液質モデルにおける脂肪組織ミトコンドリア活性の時間依存的変化とその役割

○並木 賢人、佐藤 翔、小畑 凜果、大野 鈴音、御厨 麻衣、横島 駿、吉澤 一巳、笠井 智香

東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室

○10-4 当院緩和ケア病棟における苦痛緩和の為に鎮静でのフェノバルビタール注射液の使用経験

○木下 貴司¹⁾、松村 真生子²⁾

¹⁾ 長野中央病院 薬局、²⁾ 長野中央病院 消化器内科

○10-5 終末期患者における多剤併用の実態と予後評価に関する検討

○高橋 怜史¹⁾、寺島 里枝¹⁾、木村 信康²⁾、仲鉢 英夫¹⁾

¹⁾ 湘南藤沢徳洲会病院薬剤部、²⁾ 湘南藤沢徳洲会病院 痛みセンター

口頭発表 11 相互作用・副作用

6月22日(日) 8:45~9:57 第3会場(幕張メッセ 国際会議場 2F 201 会議室)

座長: 川名真理子(亀田総合病院薬剤部)
芝崎由美子(さいたま市民医療センター)

○11-1 ترامドール製剤とフェンタニル貼付剤の相互作用が疑われた一例

○小林 麻衣子^{1,2)}、細井 尚人¹⁾、森 裕子^{1,3)}、白川 嘉子^{1,3)}、土井 由香里^{1,3)}、内藤 光海¹⁾、森田 あゆ美¹⁾、三沢 唯¹⁾、安藤 千聡²⁾

¹⁾ 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 緩和ケアチーム、²⁾ 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 薬剤部、³⁾ 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 看護部

○11-2 アパルタミド併用下の疼痛コントロールや不眠に難渋した一症例

○永井 詩織、塚本 名奈子、田中 麻理子、辰己 晃造、本田 富得

国立病院機構 神戸医療センター

○11-4 ホスネツピタント投与数日後にクエチアピンによる過鎮静が疑われた1症例

○鶴澤 友里合^{1,2)}、城山 亮輔^{1,2)}、油原 直乃^{1,2)}、高木 淳平¹⁾、益田 雅代¹⁾、大野 能之¹⁾、山本 武人¹⁾、住谷 昌彦²⁾、齊藤 祐毅³⁾、高田 龍平¹⁾

¹⁾ 東京大学医学部附属病院 薬剤部、²⁾ 東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部、³⁾ 東京大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

○11-5 当院におけるナルメデジンの使用状況および副作用発現後の薬学的介入効果について

○田端 萌加、柄沢 良恵
社会医療法人社幸会 行田総合病院 薬剤課

○11-6 末期がん患者入院時におけるポリファーマシー解消への取り組み

○柳本 龍耶、鉾之原 健太郎、西ノ原 省一、山下 和也、内野 靖、黒田 篤
社会医療法人卓翔会 卓翔会記念病院

口頭発表 12 副作用・管理・運用

6月22日(日) 8:45~9:57 第4会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 301 会議室)

座長：上島健太郎(日本大学薬学部)
本間 雅士(北里大学病院薬剤部)

○12-1 入院患者の医療用麻薬の自己管理実施に関連する因子の調査

○末松 菜月^{1,2)}、林 良亮²⁾、遠山 幸男²⁾、加藤 涼子²⁾、江崎 秀樹²⁾、伊藤 昌美²⁾、
後藤 健志²⁾、築山 郁人²⁾、宮崎 雅之²⁾、成瀬 徳彦¹⁾

¹⁾ 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 薬剤部、²⁾ 愛知県病院薬剤師会がん部会

○12-2 オキシコドン皮下注射における硬結、発赤、掻痒感などを訴えた患者に対して高濃度ヒドロモルフォン注の希釈により改善した1例

○宮本 智子、山崎 健吾、菊池 俊、増子 ひとみ、橋場 剛、對馬 凜、猪苺 良祐、
田口 圭三

リジョン薬局 厚別

○12-3 アカデミック・ディテリングの手法を用いた臨床意思決定支援により、呼吸困難のコントロールが少量オピオイドとミダゾラムの併用により改善した一例

○黒田 祥嗣^{1,5)}、伊藤 麻美²⁾、藤井 仁志^{3,5)}、新田 香澄^{4,5)}、柵山 敬司¹⁾

¹⁾ 岩手県立久慈病院 薬剤科、²⁾ 岩手県立久慈病院 消化器内科、³⁾ 岩手県立久慈病院 外科、⁴⁾ 手県立久慈病院 看護科、⁵⁾ 岩手県立久慈病院 緩和ケアチーム

○12-4 入院患者の医療用麻薬自己管理普及へ向けた課題 ～与薬インシデント分析より～

○藤掛 沙織、川合 政矩、片山 歳也

独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター

○12-5 在宅緩和医療におけるオピオイド注射薬投与設計支援ツール：業務効率化と安全性向上の評価

○山口 峻平

ワイズ株式会社 つなぐ薬局足立

○12-6 スマートフォンアプリを利用した処方箋発行支援業務による、オピオイド注射処方にかかる時間の短縮効果

○神山 綾香¹⁾、神山 祐太郎^{2,3)}

¹⁾ 有限会社ひかり薬局本店、²⁾ てらす往診クリニック、³⁾ 東京慈恵会医科大学内科学講座腫瘍・血液内科

口頭発表 13 非がん性疼痛・学校教育

6月22日(日) 8:45~9:57 第5会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 302会議室)

座長: 石川 寛(静岡県立静岡がんセンター)
佐野 元彦(星薬科大学臨床薬学研究室Ⅲ)

○13-1 院内製剤カプサイシン軟膏の有効性と有害事象に関する後ろ向き観察研究

○水谷 大輝、藤田 昌紀、二階堂 剛、正木 知宏
西宮市立中央病院 薬剤部

○13-2 慢性疼痛患者のオピオイド製剤処方実態調査-レセプトデータを用いた検討-

○伊勢 雄也¹⁾、藤原 奈緒美^{2,3)}、藤原 崇志³⁾
¹⁾ 日本医科大学 付属病院 薬剤部、²⁾ 水島協同病院 薬剤部、³⁾ 倉敷中央病院 臨床研究支援センター

○13-3 アルコール依存症患者における下顎骨骨折症例の多職種連携による疼痛管理経験

○矢野 尚¹⁾、近藤 周¹⁾、阿部田 昇平¹⁾、杉野 旬基¹⁾、伊東 俊雅²⁾、古澤 利紗²⁾、
周治 由香里²⁾、慶 元箕²⁾、板橋 聡美²⁾、杉浦 愛子²⁾、葭葉 清香¹⁾
¹⁾ 東京女子医科大学附属足立医療センター 歯科口腔外科、²⁾ 東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部

○13-4 術後疼痛管理チーム介入を要する関連因子の探索と効果的な術後疼痛緩和の検討

○宮原 強¹⁾、草葉 一友¹⁾、三浦 大介²⁾
¹⁾ 佐賀県医療センター好生館 薬剤部、²⁾ 佐賀県医療センター好生館 麻酔科

○13-5 心不全患者に対するオピオイド使用状況調査

○深津 昌弘^{1,2)}、伊藤 聡一郎^{1,2)}、吉田 ひかり^{1,2)}、有馬 絵美^{1,2)}、郷治 久美¹⁾、
山田 哲也¹⁾、水元 弥生²⁾、熊澤 尚美²⁾、萩本 聡³⁾、澤田 憲朗³⁾
¹⁾ 公立陶生病院 医療技術局 薬剤部、²⁾ 公立陶生病院 緩和ケアセンター、³⁾ 公立陶生病院 緩和ケア内科

○13-6 医薬品を取り巻く社会情勢に対応した薬物乱用防止教室の取り組み

○橋間 伸行^{1,2)}、奥田 智子¹⁾、依藤 健之介¹⁾
¹⁾ 神鋼記念病院 診療技術部 薬剤室、²⁾ 神戸市学校薬剤師会

口頭発表 14 がんに関連する症状緩和

6月22日(日) 8:45~9:57 第6会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 303会議室)

座長: 小瀬 英司(順天堂大学医学部附属順天堂医院)
佐伯 朋哉(横浜南共済病院薬剤部)

○14-1 オピオイド使用患者におけるせん妄発症リスク因子の調査

○塩田 一智、佐古 久美子、矢部 貴美恵、高橋 信
東京都立多摩北部医療センター 薬剤科

○14-2 当院における治療抵抗性の苦痛に対するミダゾラムの使用状況と効果の検討

○杉田 昌子¹⁾、井上 巳喜子²⁾、土日 ルリ子²⁾
¹⁾ 社会医療法人同心会古賀総合病院 薬剤部、²⁾ 社会医療法人同心会古賀総合病院 看護部

○14-3 終末期急性骨髄性白血病において倦怠感の改善に影響する因子についての調査

○大野 真史、中村 雄亮、大聖 遥香、小川 綾香、小森 均
札幌北楡病院 薬剤部

○14-4 切除不能進行・再発膀胱がんに対するFOLFIRINOX施行後の体重減少が生存期間に与える影響

○黒部 健太郎、草葉 一友
佐賀県医療センター好生館 薬剤部

○14-5 小児緩和ケアに関する薬剤師の意識とオピオイド使用に関する全国アンケート調査

○船渡 三結^{1,8)}、中村 和代^{2,8)}、近藤 匡慶^{3,8)}、高橋 伸夫⁴⁾、飛鷹 範明^{5,8)}、
宮里 明芽^{6,8)}、国分 秀也^{7,8)}

¹⁾ 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部、²⁾ 静岡県立総合病院 薬剤部、³⁾ 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部、
⁴⁾ 新宿ヒロクリニック、⁵⁾ 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部、⁶⁾ 東京医科大学病院 薬剤部、⁷⁾ 湘南医療大学薬学部臨床薬理学研究室、⁸⁾ 日本緩和医療薬学会研究推進委員会

○14-6 がん終末期医療における予後予測法の比較とその活用

○小林 雅子^{1,4)}、勝田 未歩乃^{1,4)}、新谷 智則¹⁾、佐藤 友美¹⁾、仁木 一順³⁾、
岡本 禎晃^{2,4)}

¹⁾ 市立敦賀病院 薬剤部、²⁾ 敦賀市立看護大学 薬理学、³⁾ 大阪大学大学院 薬学研究科、⁴⁾ 市立敦賀病院 緩和ケアチーム

口頭発表 15 学校教育・管理・運用・副作用・その他

6月22日(日) 8:45~9:57 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長：和田 紀子(昭和医科大学病院附属東病院薬剤部)
吉田 謙介(東京薬科大学医薬品安全管理学教室)

○15-1 オピオイド誘発性便秘症のリスク因子の検討

○赤星 真広、森岡 友美、佐多 照正
鹿児島厚生連病院 薬剤科

○15-2 オピオイド誘発性便秘症に対するナルデメジントシル酸塩錠の有効性に影響する要因の検討

○井上 桃歌¹⁾、岸本 大裕²⁾、飯島 こころ¹⁾、星 加織²⁾、清海 杏奈¹⁾、吉田 謙介¹⁾、
田中 嘉一²⁾、杉浦 宗敏¹⁾

¹⁾ 東京薬科大学 薬学部 医療衛生薬学科 医薬品安全管理学教室、²⁾ 千葉県済生会習志野病院 薬剤部

○15-3 薬局薬剤師によるオピオイド系鎮痛剤に関する薬学的介入事例の解析

○菅原 潤人¹⁾、田口 真穂¹⁾、佐藤 周子^{1,2)}、清水 彌椰¹⁾、菅原 里乃彩¹⁾、相川 くるみ¹⁾、
山田 博章¹⁾、小出 彰宏¹⁾、藤田 健二^{1,2)}

¹⁾ 横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室、²⁾ シドニー大学

○15-4 医療用麻薬使用中の外来がん患者に対する診察前薬剤師面談の取り組みとその評価

○里岡 達哉、勝浦 知恵、松本 和樹、橋本 早苗、廣畑 秀記、酒井 克紀、井上 貴子、
福田 英克

公立学校共済組合 近畿中央病院 薬剤部

○15-5 無菌調剤施設を有する薬局における医療用麻薬廃棄の現状と問題点～安全で持続可能な体制構築に向けて～

○覺知 哲美¹⁾、水谷 めぐみ¹⁾、原田 寿²⁾、藤田 龍²⁾、前田 桂吾²⁾

¹⁾ 日本調剤 尾山台南口薬局、²⁾ 日本調剤株式会社 在宅医療部

○15-6 学校薬剤師によるがん教育の実施とその教育効果について -カード学習教材を用いた授業の実施-

○横山 郁子¹⁾、橋間 伸行²⁾、谷口 美保子¹⁾、渡邊 理乃³⁾、黒田 雅人⁴⁾、河内 正二¹⁾

¹⁾ 神戸薬科大学、²⁾ 神鋼記念病院 薬剤室、³⁾ キリン堂薬局、⁴⁾ 神戸市立横尾中学校

□頭発表 16 非オピオイド鎮痛薬・鎮痛補助薬

6月22日(日) 10:15~11:32 第7会場(幕張メッセ 国際会議場 3F 304 会議室)

座長：飛鷹 範明(愛媛大学医学部附属病院薬剤部)
宮崎 百合(横浜市立みなと赤十字病院薬剤部)

○16-1 ジクロフェナク Na 経皮吸収型製剤が腎機能に与える影響

○松浦 知博、田中 美紗希、佐古 夕芽、溝口 佳子、田中 恵美子、山下 剛史郎、
満田 正樹

大阪労災病院 薬剤部

○16-2 がん疼痛に対するジクロフェナクナトリウム貼付剤の使用状況調査

○大畑 一努、赤木 貴紀、稲見 菜月、大平 真也、今田 雅子、上野 千奈美、酒井 洋子、
樫本 考司

広島赤十字・原爆病院 薬剤部

○16-3 がん疼痛に対する先行非ステロイド性抗炎症薬からジクロフェナク経皮吸収製剤へ切り替えた際の有効性を検討した調査

○飯倉 佑介¹⁾、横川 貴志¹⁾、原嶋 渉²⁾、川上 和宜¹⁾、前 勇太郎¹⁾、石黒 太造¹⁾、
長谷川 聡子¹⁾、古谷 良太¹⁾、越智 美月¹⁾、清水 久範¹⁾、山口 正和¹⁾

¹⁾ 公益財団法人 がん研究会 有明病院 薬剤部、²⁾ 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 登戸店

○16-4 FDA 有害事象報告システム(FAERS)データベースを用いた非ステロイド性抗炎症薬により誘発される消化管障害に関する網羅的解析

○慶 元箕^{1,2)}、植沢 芳広¹⁾

¹⁾ 明治薬科大学 医療分子解析学研究室、²⁾ 東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部

○16-5 がん患者に対するジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤使用の単施設後方視的観察研究

○杉浦 愛子¹⁾、慶 元箕^{1,2)}、太刀川 悠¹⁾、周治 由香里^{1,2)}、伊東 俊雅^{1,2)}

¹⁾ 東京女子医科大学附属足立医療センター、²⁾ がん包括診療部 緩和ケア室

○16-6 難治性のがん性神経障害性疼痛にバルプロ酸ナトリウムが奏功した7症例

○安永 亘¹⁾、揚野 美代子¹⁾、的場 康德²⁾

¹⁾ 社会医療法人聖医会 サザン・リージョン病院、²⁾ 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 外科学講座 消化器外科学

口頭発表 17 オピオイド鎮痛薬・オピオイドスイッチ

6月22日(日) 8:45~9:57 第8会場(幕張メッセ 国際会議場 1F 104 会議室)

座長：花輪 剛久(東京理科大学薬学部)
山田 正実(大阪府済生会野江病院薬剤科)

○17-1 メサドン導入時における上乗せ法と stop-and-go 法との比較調査

○藤居 藍、六車 龍介、田中 雅子、藤永 仁美、大前 隆広、汐谷 恵、福井 由美子
兵庫県立がんセンター 薬剤部

○17-2 当院におけるオピオイド中止理由と離脱率に関する調査

○小西 正晃
さぬき市民病院 薬剤科

○17-3 オピオイド持続注射使用患者におけるオピオイドレスキュー量の違いによる有効性と安全性の比較

○高科 嘉章、宮城 明実、石塚 雅人、中道 秀徳
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院 薬剤部

○17-4 医療用麻薬のレスキュー薬自己管理開始による有効性と安全性および適正使用への影響

○佐藤 和文、高橋 大、尾形 由紀
岩手県立磐井病院 薬剤科

○17-5 タペンタドール錠製造販売終了によるオピオイドスイッチが症状コントロールに大きく影響した一例

○真鍋 春希¹⁾、工藤 浩史¹⁾、木内 大佑²⁾、小島 康志³⁾、松井 礼子¹⁾、西村 富啓¹⁾
¹⁾ 国立国際医療研究センター病院 薬剤部、²⁾ 国立国際医療研究センター病院 緩和ケア科、³⁾ 国立国際医療研究センター病院 消化器内科

○17-6 メサドンへのオピオイドスイッチが有用であった乳癌骨転移の1症例

○和泉 早智子¹⁾、笠巻 暁代²⁾、町野 孝幸³⁾、石川 美哉子⁴⁾、渡邊 真理子⁵⁾、長岡 康裕^{3,6)}
¹⁾ 医療法人 東札幌病院 薬剤課、²⁾ 医療法人 東札幌病院 看護部、³⁾ 医療法人 東札幌病院 緩和ケア科、⁴⁾ 医療法人 東札幌病院 リハビリテーション課、⁵⁾ 医療法人 東札幌病院 栄養課、⁶⁾ 医療法人 東札幌病院 消化器内科

□頭発表（一般ポスター）

ポスター発表 1 オピオイド鎮痛薬

6月21日（土） 14:40～15:40 ポスター会場（幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A）

座長：板井 進悟（金沢大学附属病院医療安全管理部）

P1-1 安城更生病院における医療用麻薬の処方状況調査

○小島 礼菜¹⁾、渡辺 裕之¹⁾、中村 和行²⁾、野本 歩未¹⁾、中村 里英奈¹⁾、植松 夏子¹⁾、高津 章恵¹⁾、米山 英二¹⁾、羽田 勝彦¹⁾

¹⁾ JA 愛知厚生連安城更生病院 薬剤部、²⁾ JA 愛知厚生連豊田厚生病院 薬剤部

P1-2 当院におけるモルヒネ注の使用状況調査

○吉田 勝好、大谷 崇仁、郷原 学

益田赤十字病院 薬剤部

P1-3 当院でのがん性疼痛におけるオピオイド鎮痛薬開始時の鎮痛薬投与状況に関する調査

○鈴木 彩加、奥田 真由美、日比 徹

秀和総合病院 薬剤部

P1-4 終末期にメサドンを使用中の患者における内服中止後のオピオイド使用状況に関する後方視的調査

○奥津 雄人¹⁾、江原 純也¹⁾、鳥越 一宏^{1,3)}、瀧野 陽子²⁾、小西 治子²⁾、横山 登英¹⁾、秋山 大²⁾、石田 耕太¹⁾、吉見 猛¹⁾、高橋 尚子²⁾、細谷 治¹⁾

¹⁾ 日本赤十字社医療センター 薬剤部、²⁾ 日本赤十字社医療センター 緩和ケア科、³⁾ 湘南医療大学 薬学部

P1-5 癌性疼痛に加え、術後疼痛、精神的要因から疼痛コントロールに難渋した 1 症例

○丸田 佐知子¹⁾、鈴木 良芽¹⁾、河原 有希¹⁾、高橋 侑子¹⁾、仁木 富美子¹⁾、猿渡 康宏¹⁾、伊藤 由希¹⁾、水本 智子¹⁾、平井 裕子¹⁾、鳥崎 哲平²⁾、福永 光子³⁾

¹⁾ 大腸肛門病センター高野病院 薬局、²⁾ 大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア科、³⁾ 大腸肛門病センター高野病院 消化器外科

P1-6 末期心不全患者の呼吸困難感の症状緩和に対するオピオイド製剤の使用状況

○野村 祐司¹⁾、榎原 秀之¹⁾、末松 菜月¹⁾、河合 奈津子²⁾、成瀬 徳彦¹⁾

¹⁾ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院 薬剤部、²⁾ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院 緩和ケア科

P1-7 オピオイドを中止し緩和ケア病棟から退院へと繋がった一症例

○八本 久仁子¹⁾、岸 直人²⁾

¹⁾ 医療法人社団曙会 シムラ病院 薬剤科、²⁾ 医療法人社団曙会 シムラ病院 外科

P1-8 内服オピオイド鎮痛薬の簡易懸濁法を含む経管投与への適応可否に関する調査

○岸本 真^{1,2)}、徳丸 章佳¹⁾、徳永 楓果¹⁾、前田 裕太¹⁾、六田 晃士¹⁾、後藤 若菜¹⁾、北園 幸大¹⁾、屋敷 大輔¹⁾、長ヶ原 琢磨¹⁾、荻尾 夕起子¹⁾、徳永 仁²⁾

¹⁾ 霧島市立医師会医療センター 薬剤部、²⁾ 九州医療科学大学 大学院 臨床薬学第一講座

P1-9 造血管腫瘍患者におけるトラマドールと強オピオイドの使用状況の実態調査

○形部 文寛¹⁾、安田 祐里奈¹⁾、榎 恒雄¹⁾、浅野 耕助²⁾

¹⁾ 国立病院機構 広島西医療センター 薬剤部、²⁾ 国立病院機構 広島西医療センター 泌尿器科

P1-10 医療用麻薬の使用量の動向調査 — 10年間の推移—

○水摩 ひかり¹⁾、知念 ほのか¹⁾、服部 政治²⁾、前 知子²⁾、秋山 留里¹⁾、徳城 雄大¹⁾、喜多 洋嗣¹⁾

¹⁾ 医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 薬剤部、²⁾ 医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 疼痛治療科

ポスター発表 2 オピオイド鎮痛薬・オピオイドスイッチ

6月21日(土) 14:40~15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長: 加藤あゆみ(日本医科大学付属病院薬剤部)

P2-1 当院における腎機能障害患者に対するヒドロモルフォン製剤の開始量に関する状況調査

○野尻 陽菜、松矢 宏実、立石 健史、中谷 洋子、向井 妙子、峠 正義、船木 康二郎
富山県立中央病院 薬剤部

P2-2 在宅において経鼻チューブからメサドン錠を投与し疼痛コントロールをした一例

○蝦名 美江、西村 美和、舩甚 路子、野藤 なつみ
大野あけぼの薬局

P2-3 フェンタニル貼付剤からヒドロモルフォン注へスイッチングすることにより副作用が軽減した一例

○鬼頭 久美子¹⁾、佐藤 英次²⁾、高島 香織³⁾、松浦 恵³⁾

¹⁾ 医療法人社団慶友会 吉田病院 薬剤課、²⁾ 医療法人社団 慶友会 吉田病院 泌尿器科、³⁾ 医療法人社団 慶友会 吉田病院 看護部

P2-4 薬剤師の介入によりオピオイドスイッチングを行い適正使用に繋がったがんサバイバーの一例

○伏見 久美子¹⁾、小森 桂子¹⁾、山添 晶子¹⁾、富井 真一¹⁾、谷口 彩乃²⁾、土谷 有美¹⁾

¹⁾ 京都第一赤十字病院 薬剤部、²⁾ 京都第一赤十字病院 緩和ケア内科

P2-5 高用量ヒドロモルフォン徐放錠使用患者に対して、痛覚過敏やケミカルコーピングを疑い、オキシコドン徐放錠へのスイッチングにより減量できた1例

○増田 智美¹⁾、黒崎 亮²⁾、今井 洋子³⁾

¹⁾ 前橋赤十字病院 薬剤部、²⁾ 前橋赤十字病院 外科、³⁾ 前橋赤十字病院 看護部

P2-6 オピオイドスイッチングによる症状緩和の結果自宅退院を実現し、せん妄を機に高用量オピオイドの減量に成功した1症例

○芝田 知里、橋本 実、松田 彩華、佐々木 千夏、橋本 昌幸

医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 薬剤部

P2-7 フェンタニル注射液からオキシコドン注射液へのオピオイドスイッチングを行う際の当院におけるオピオイド換算比の現状

○武井 颯、石嶋 麗、秋山 律、古沢 紗綾香、長尾 嘉真、長山 佳之

国立病院機構 関東信越グループ 東京医療センター 薬剤部

P2-8 タペンタドールからのオピオイドスイッチングの状況調査

○山崎 直樹、森 宏幸
大阪市立総合医療センター 薬剤部

P2-9 高用量のオピオイドスイッチングに介入した膵臓がんの一症例

○新山 千尋、堀 有美子、佐藤 史織、陸丸 幹男
大分市医師会立アルメイダ病院 薬剤部

P2-10 フェンタニル貼付剤からモルヒネ注射液へのオピオイドスイッチングが有効であった 1 症例

○竹村 智行¹⁾、西川 彩花²⁾、堀江 修³⁾
¹⁾株式会社メディカルガーデン ガーデン薬局西口店、²⁾CUC ホスピス ReHOPE 伊勢原、³⁾医療法人社団杏月会 伊勢原駅前クリニック

ポスター発表 3 オピオイドスイッチ・鎮痛補助薬・非がん

6月21日(土) 14:40~15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長: 前田 桂吾(日本調剤株式会社在宅医療部)

P3-1 オキシコドン持続静注からフェンタニル貼付剤へオピオイドスイッチングすることでがん患者のせん妄症状が改善した 1 例

○福島 与詩香¹⁾、加藤 あゆみ¹⁾、金澤 裕子¹⁾、岡村 由美子²⁾、岩崎 雅江³⁾、伊勢 雄也¹⁾
¹⁾日本医科大学付属病院 薬剤部、²⁾日本医科大学付属病院 看護部、³⁾日本医科大学付属病院 緩和ケア科

P3-2 患者の希望を達成するために多職種で高用量オピオイドのスイッチングを行った 1 例

○前田 祐香^{1,2)}、樋口 文子^{1,2)}、佐々木 照美^{2,3)}、岩永 彩子⁴⁾、嶋本 正弥^{2,5)}、清水 裕彰¹⁾
¹⁾国立病院機構九州がんセンター 薬剤部、²⁾国立病院機構九州がんセンター 緩和ケアチーム、³⁾国立病院機構九州がんセンター 看護部、⁴⁾国立病院機構九州がんセンター 消化管外科、⁵⁾国立病院機構九州がんセンター 緩和治療科

P3-3 高用量ヒドロモルフォン塩酸塩錠を服用している在宅療養患者に緩和ケアチーム薬剤師として関与し 4 段階のオピオイドスイッチングを行った直腸癌の一症例

○前田 裕太^{1,2)}、荻尾 夕起子^{1,2)}、後藤 若菜^{1,2)}、徳永 楓果^{1,2)}、六田 晃士^{1,2)}、馬見塚 勝郎²⁾、三輪 晋智³⁾、岸本 真¹⁾
¹⁾霧島市立医師会医療センター 薬剤部、²⁾霧島市立医師会医療センター 緩和ケアチーム、³⁾三輪クリニック

P3-4 内服困難によりプレガバリン中止後の神経障害性疼痛コントロールに難渋した一例

○松波 寿雄¹⁾、西島 弘二²⁾、大川 浩子¹⁾
¹⁾金沢赤十字病院 薬剤部、²⁾金沢赤十字病院 外科

P3-5 神経障害性疼痛に対するガバペンチノイド適正使用のための現状調査

○岡 美郷¹⁾、吉野 恭平¹⁾、藤原 大¹⁾、中川 貴之^{1,2)}
¹⁾和歌山県立医科大学付属病院 薬剤部、²⁾和歌山県立医科大学 薬学部

P3-6 終末期がん患者の神経障害性疼痛に対してミルタザピンの処方提案が著効した 1 例

○逆井 慎吾¹⁾、桐山 祐紀江²⁾、米本 奈央³⁾、松原 つぐみ⁴⁾、本田 雅志⁵⁾、河井 伸朗⁶⁾

¹⁾みよの台薬局株式会社 みよの台薬局 三ツ沢店、²⁾みよの台薬局株式会社 そうごう薬局 在宅調剤センター 青砥店、³⁾みよの台薬局株式会社 みよの台薬局 品川二葉店、⁴⁾みよの台薬局株式会社 みよの台薬局 大泉学園店、⁵⁾総合メディカル株式会社、⁶⁾みよの台薬局株式会社

P3-7 化学療法施行時に疼痛コントロールが不良となりデキサメタゾンが有用だった肺がんの一例

○宮里 明芽、鈴木 由華、池谷 清香、石田 美紀、三原 由希子、遠藤 光史、濱田 宏
東京医科大学病院 緩和医療部

P3-8 重症末期心不全患者に対してモルヒネ使用し治療継続可能になった 1 症例

○森 理保
徳島市民病院 薬剤部

P3-9 非がん性疼痛に対しフェンタニル貼付剤導入となつた 1 症例

○澁谷 恵美子
IHI 播磨病院

P3-10 在宅患者における非がん性呼吸器疾患の呼吸困難に対する緩和医療への介入時に多数のプロブレムを経験した一例～オピオイド導入、ワルファリンとの相互作用、スイッチング～

○菊池 俊、山崎 健吾、宮本 智子、増子 ひとみ、橋場 剛、對馬 凜、猪苜 良祐、
田口 圭三
リジョン薬局 厚別

ポスター発表 4 その他 疼痛管理

6月21日(土) 14:40～15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)
座長：壁谷めぐみ(名古屋記念病院薬剤部)

P4-1 蠕動痛を訴えるがん患者に対し、オキシコドン注射液からオキシコドン徐放錠への切り替えにより疼痛緩和が得られた一例

○槌谷 佳那子¹⁾、小玉 幸与¹⁾、鈴川 誠¹⁾、木原 里香²⁾、出口 真人¹⁾、石川 眞一²⁾、
今西 忠宏¹⁾

¹⁾JA 愛知厚生連 江南厚生病院 薬剤部、²⁾JA 愛知厚生連 江南厚生病院 緩和ケア内科

P4-2 クーデックエイミー PCA を導入し自宅退院へ繋がった一例

○岡野 新、安達 嘉織、前原 大輔、藤原 康浩、本間 久美子
兵庫県立はりま姫路総合医療センター 薬剤部

P4-3 アミトリプチリンの供給不足が与えた影響に関する実態調査

○静永 紘実¹⁾、内山 将伸^{1,2)}、川田 哲史¹⁾、塩入 真衣¹⁾、山科 卓也^{1,2)}、中野 貴文^{1,2)}、
松尾 宏一^{1,2)}、兼重 晋¹⁾、神村 英利¹⁾

¹⁾福岡大学病院 薬剤部、²⁾福岡大学 薬学部 腫瘍・感染症薬学研究室

P4-4 抗不安薬および非定型抗精神病薬により PCA 回数の減少がみられた一例

○中島 優太
(一社)保健共同企画ふくい みどり薬局

P4-5 患者の希望を尊重しながら服薬錠数を変えずにヒドロモルフォンの減量に成功した一症例

○徳永 楓果^{1,2)}、荻尾 夕起子^{1,2)}、六田 晃士^{1,2)}、後藤 若菜^{1,2)}、前田 裕太^{1,2)}、岸本 真¹⁾、
屋敷 大輔¹⁾

¹⁾ 霧島市立医師会医療センター 薬剤部、²⁾ 霧島市立医師会医療センター 緩和ケアチーム

P4-6 生成 AI を利用したオピオイドスイッチング計算ツールの開発

○野尻 美津紀、庄 泰紀、太田 知宏、平川 結菜、大嶋 麻里、武宮 陽道、北森 靖隆、
玉置 秀成

独立行政法人 労働者健康安全機構 熊本労災病院

P4-7 外来がん患者の疼痛管理に対し、保険薬局薬剤師が実施している服薬期間中フォローアップの現状調査

○高山 さやか¹⁾、森田 みゆき²⁾、井手 陽子¹⁾、久保田 愛菜¹⁾、堂籠 航¹⁾、田原 三紗³⁾、
小川 愛⁴⁾

¹⁾ さくら薬局 久留米大学病院前店、²⁾ さくら薬局 新宮中央駅前店、³⁾ さくら薬局 行橋店、⁴⁾ トータル・メ
ディカルサービス 事業部

P4-8 薬剤師による母国語での介入により疼痛管理の改善をみた外国人患者の一症例

○傳田 容子¹⁾、金子 健^{1,2)}、嶋 亮太^{1,2)}、青島 靖琳¹⁾、早川 智久¹⁾、村松 博¹⁾、
河添 仁^{1,3)}、大谷 壽一^{1,3)}、大岸 美和子²⁾、伊原 奈帆²⁾、竹内 麻理²⁾

¹⁾ 慶應義塾大学病院 薬剤部、²⁾ 慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター、³⁾ 慶應義塾大学医学部 病院薬剤学教室

P4-9 QT 延長を伴う患者にメサドンの開始基準を検討し安全に導入できた一例

○大塩 由華、大平 玲生、志水 仁美、八田部 良子、三村 睦美、柏瀬 しのぶ、塩川 満
東京女子医科大学病院 薬剤部

P4-10 オピオイド使用患者が薬剤師に求める介入内容の調査

○柳下 昂太、星野 剛史、木下 史一、山口 香織、小林 敦司、原田 貴行、萩原 雅人、
菅尾 高裕

順天堂大学 医学部附属 静岡病院 薬剤科

ポスター発表 5 QOL・副作用

6月21日(土) 14:40~15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長:宮澤 正幸(藤沢市民病院薬局)

P5-1 がん化学療法導入時の IPOS を使用した全人的な評価について

○橋本 百世¹⁾、川口 冴子²⁾、見田 秋与志¹⁾、仁木 一順^{1,3)}、田中 育子¹⁾、岡本 禎晃⁴⁾

¹⁾ 市立芦屋病院 薬剤科、²⁾ 市立芦屋病院 看護部、³⁾ 大阪大学大学院 薬学研究科、⁴⁾ 敦賀市立看護大学

P5-2 骨粗鬆症治療薬の効果が生活機能へ与える影響

○岡 優稀、小見 暁子、土井 信幸

高崎健康福祉大学 薬学部 薬学科 地域医療薬学研究室

P5-3 オピオイド誘発性悪心嘔吐に対してアセナピン舌下錠を使用しオピオイドタイトレーションを行った 1 症例

○西村 悠吾^{1,4)}、米田 篤司^{1,4)}、福永 千佳子¹⁾、島谷 昌明¹⁾、大橋 理沙^{2,4)}、田中 優樹^{3,4)}

¹⁾ 関西医科大学総合医療センター 薬剤部、²⁾ 関西医科大学総合医療センター 看護部、³⁾ 関西医科大学総合医療センター 精神神経科、⁴⁾ 関西医科大学総合医療センター 緩和ケアチーム

- P5-4 終末期におけるナルデメジン単独投与の有用性
-
- 小谷 侑太郎
鳥取生協病院 薬局
- P5-5 病棟常駐薬剤師によるがん患者に対する随時看視・介入を介して、当該患者の放射線併用化学療法の奏効性を高め、同時に QOL 確保に寄与できた 1 例
-
- 渡部 照美¹⁾、鈴木 順子²⁾、渡邊 貴哉¹⁾、藤原 穂香¹⁾、久保田 真生¹⁾、合津 貴志¹⁾、田崎 政則¹⁾
¹⁾ 慈山会医学研究所附属坪井病院薬剤部、²⁾ 北里大学
- P5-6 Pentazocine 長期使用による精神依存への薬剤師の介入：治療的示唆を得た 1 症例
-
- 中矢 姫菜子¹⁾、石原 正志¹⁾、星野 良¹⁾、船渡 三結¹⁾、後藤 咲香¹⁾、小林 亮²⁾、鈴木 昭夫¹⁾
¹⁾ 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部、²⁾ 岐阜薬科大学 先端医療薬学研究室
- P5-7 ترامadol徐放錠を中止し、退薬症候が起こった症例を活かして
-
- 後藤 若菜^{1,2)}、六田 晃士^{1,2)}、前田 裕太^{1,2)}、徳永 楓果^{1,2)}、屋敷 大輔¹⁾、荻尾 夕起子^{1,2)}、岸本 真¹⁾
¹⁾ 霧島市立医師会医療センター 薬剤部、²⁾ 霧島市立医師会医療センター 緩和ケアチーム
- P5-8 オピオイド鎮痛薬のケミカルコーピングをメサドンへのオピオイドスイッチングで対応した症例
-
- 黒屋 謙吾¹⁾、小山 大輔²⁾、萬谷 摩美子¹⁾、小林 真弓³⁾、小坂 麻利³⁾、小木曾 綾子³⁾、山田 泰史²⁾
¹⁾ 医療法人愛和会 愛和病院 薬剤部、²⁾ 医療法人愛和会 愛和病院 診療部、³⁾ 医療法人愛和会 愛和病院 看護部
- P5-9 化学療法後の悪心嘔吐からケミカルコーピングを疑った一例
-
- 柄沢 良恵、伊藤 はるみ、林 暁
行田総合病院 薬剤課
- P5-10 当院におけるがん患者のせん妄に対するプロナンセリン経皮吸収型製剤の使用実態調査
-
- 萩原 里美¹⁾、畑 加奈子¹⁾、久保田 丈太¹⁾、佐藤 彰洋²⁾、細瀧 喜代志³⁾
¹⁾ くまもと県北病院 薬剤部、²⁾ くまもと県北病院 総合診療科、³⁾ くまもと県北病院 外科

ポスター発表 6 その他 副作用

6月21日(土) 14:40~15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)
座長:高野 陽平(砂川市立病院薬剤部)

P6-1 強オピオイド鎮痛薬の導入による抗コリンスコアと服薬状況についての検討

○塩田 真帆¹⁾、遠藤 晋吾¹⁾、山本 明紀¹⁾、藤井 一美¹⁾、阪本 亮²⁾、山本 敏也³⁾

¹⁾ 地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 薬剤科、²⁾ 地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 心療内科、³⁾ 地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 緩和ケア科

- P6-2 FAERS を用いたオピオイド-オピオイド間およびオピオイド-チロシンキナーゼ阻害薬間の薬物相互作用に関する探索的分析**
-
- 細谷 龍一郎¹⁾、寺島 朝子¹⁾、国分 秀也³⁾、植沢 芳広²⁾、加賀谷 肇¹⁾
- ¹⁾湘南医療大学薬学部 臨床薬理学研究室、²⁾明治薬科大学 医療分子解析学研究室、³⁾湘南医療大学薬学部 臨床薬理学研究室
- P6-3 メサドン投与により複視が生じた可能性がある 1 症例**
-
- 島津 智行^{1,2,3,4,5)}、金住 麻子^{1,5)}、小田島 綾子^{2,5)}、佐藤 謙太郎^{3,5)}、木村 陽^{4,5)}、三本松 泰孝¹⁾、鈴木 千波¹⁾、田村 広志¹⁾
- ¹⁾ JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 薬剤部、²⁾ JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 看護部、³⁾ JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 精神科、⁴⁾ JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 緩和支援治療科、⁵⁾ JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 緩和ケアチーム
- P6-4 オピオイドによる尿閉に $\alpha 1$ 受容体遮断薬が奏効した 1 例**
-
- 上杉 拓弥、白井 景、鈴木 利規、佐藤 文美、寺澤 美琴
- 豊橋市民病院
- P6-5 オキシコドン服用患者における掻痒症状への対応 1 症例の報告**
-
- 島田 斗茂美¹⁾、清水 孝祐¹⁾、小出 知嘉子²⁾
- ¹⁾ しのの薬局 新大前店、²⁾ しのの薬局 本社
- P6-6 オキシコドン投与時に出現したミオクローヌスに対して、オピオイドスイッチングが有効であった一症例**
-
- 中林 京介¹⁾、杉浦 龍也²⁾、森 章哉¹⁾、岩橋 文哉¹⁾、湯浅 美鈴³⁾、松元 千陽⁴⁾、名和 史⁴⁾
- ¹⁾三重厚生連 鈴鹿中央総合病院 薬剤部、²⁾三重北医療センター いなべ総合病院 薬剤部、³⁾三重厚生連 鈴鹿中央総合病院 緩和ケア内科、⁴⁾ 三重厚生連 鈴鹿中央総合病院 看護部
- P6-7 メサドン塩酸塩錠を使用していた患者を振り返って**
-
- 笹木 洋
- 森下病院 薬局
- P6-8 がん化学療法における口腔粘膜障害に半夏瀉心湯を使用した一例**
-
- 簗島 弓未子、大槻 明日香、荻野 健吾、西村 栄一、近藤 智幸、橋本 光生
- 旭川赤十字病院 薬剤部
- P6-9 ときわ会常磐病院におけるペグフィルグラスチムボディーポッド製剤の使用実態調査**
-
- 白石 童子^{1,2)}、酒井 敏直¹⁾、早乙女 彩子²⁾、早乙女 浩之¹⁾
- ¹⁾ 公益財団法人ときわ会 常磐病院 薬剤部、²⁾ 公益財団法人ときわ会 磐城中央病院 薬剤課
- P6-10 当院におけるエンホルツマブ ベドチン投与患者に対する強オピオイドの使用実態**
-
- 畑 加奈子¹⁾、萩原 里美¹⁾、久保田 丈太¹⁾、山口 隆大²⁾、細瀧 喜代志³⁾
- ¹⁾一般地方独立行政法人 くまもと県北病院 薬剤部、²⁾一般地方独立行政法人 くまもと県北病院 泌尿器科、³⁾一般地方独立行政法人 くまもと県北病院 外科
- P6-11 肺癌 EGFR 陽性 ゲフィチニブ・ペメトレキセド・カルボプラチンの併用 10 年目の 1 例**
-
- 大久保 節子
- 株式会社タンポポ薬局

ポスター発表 7 副作用・がんに関連する症状緩和

6月21日(土) 14:40~15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)
座長:小林 篤史(在宅医療特化型 カリン薬局)

P7-1 進行性尿路上皮がん患者におけるエンホルツマブ ベドチン再投与の可能性:一例報告

○沢 仁美¹⁾、前田 幸千恵¹⁾、吉岡 慎平²⁾、中村 暢彦³⁾

¹⁾川西市立総合医療センター 薬剤科、²⁾川西市立総合医療センター 泌尿器科、³⁾愛知学院大学薬学部 実践薬学講座

P7-2 腫瘍崩壊に伴う抗利尿ホルモン不適切分泌症候群を発症した全身性免疫グロブリン軽鎖アミロイドーシスの症例

○星 茜¹⁾、金正興¹⁾、島本 一志^{1,2)}、綿貫 めぐみ³⁾、服部 憲路³⁾、百 賢二²⁾

¹⁾昭和医科大学病院 薬剤部、²⁾昭和医科大学 薬学部 病院薬剤学講座、³⁾昭和医科大学 医学部 内科学講座 血液内科学部門

P7-3 電話サポートによりがん化学療法施行患者および家族へのサポートを経験した一例

○神 佳祐、江畑 明日実、村永 諒、中嶋 紘文、坂田 幸雄、長浜谷 耕司

市立函館病院 薬剤部

P7-4 ベネトクラクス/アザシチジン併用療法にて心機能低下を来した症例

○島本 一志^{1,2)}、星 茜^{1,2)}、竹中 桃子^{1,3)}、金正興¹⁾、島田 翔太郎⁴⁾、服部 憲路⁴⁾、
嶋村 弘史^{1,2)}

¹⁾昭和医科大学病院 薬剤部、²⁾昭和医科大学薬学部病院薬剤学講座、³⁾昭和医科大学統括薬剤部、⁴⁾昭和医科大学医学部内科学講座血液内科学部門

P7-5 口腔乾燥に対するアズノール・グリセリンスプレーの有用性について

○千葉 愛珠、大谷 拓也、岩川 悟、室岡 邦彦、高瀬 久光

順天堂大学医学部附属浦安病院 薬剤科

P7-6 食道がんに対する Short Hydration 法による FP 療法の安全性評価

○島山 智明、鈴木 拓也、遠藤 美央、玉木 慎也

KKR 札幌医療センター

P7-7 病棟薬剤業務において、メトトレキサート関連悪性リンパ腫を疑った 2 症例

○諫見 圭佑¹⁾、島山 陽子¹⁾、大渡 五月²⁾、大塚 真紀²⁾、山形 真一¹⁾

¹⁾国立病院機構鹿児島医療センター 薬剤部、²⁾国立病院機構鹿児島医療センター 血液内科

P7-8 アナモレリン塩酸塩錠開始後高血糖をきたし、血糖コントロールを行った 1 症例

○小牧 佐知子、沢 仁美、細見 健悟、浅井 浩之

川西市立総合医療センター 薬剤科

P7-9 緩和ケアチーム介入患者における抗コリン作用を有する薬剤の使用状況

○近藤 綾子^{1,2)}、山本 泰大^{1,2)}、笠原 愛菜^{1,2)}、白羽 里帆^{1,2)}、北川 素子¹⁾、平野 茂樹^{1,2)}、
出口 裕子¹⁾

¹⁾小牧市民病院 薬局、²⁾小牧市民病院 緩和ケアチーム

P7-10 頭部皮膚腫瘍の浸潤に対し亜鉛華デンプン外用法を使用した 1 例

○高橋 忍、相川 由美子、牧野 以佐子、有附 玲子

医療法人康心会 茅ヶ崎中央病院 薬剤科

ポスター発表 8 その他 がんに関連する症状緩和

6月21日(土) 14:40~15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長:白石 丈也(有限会社メディックス白石 けや木薬局)

P8-1 化学療法施行時の口腔内疼痛に対して半夏瀉心湯が奏功した症例

○高塚 優香里、坪内 敦志、酒井 牧子

松江市立病院 薬剤部

P8-2 がん患者に対し薬剤が原因となる口腔内黒色化に介入した 2 例

○石川 絵理奈¹⁾、二村 昭彦²⁾、伊藤 彰博³⁾、臼井 正信³⁾、山田 成樹¹⁾

¹⁾藤田医科大学病院 薬剤部、²⁾藤田医科大学七栗記念病院 医療技術部 薬剤課、³⁾藤田医科大学 医学部 外科・緩和医療学講座

P8-3 難治性悪心・嘔吐症状に対してハロペリドール注を投与しアカシジアが疑われた患者に、少量のミダゾラム注投与が奏功した一症例

○佐々木 歩美^{1,4)}、奥山 奈穂子^{2,4)}、佐藤 明史³⁾、鈴木 麻子^{1,4)}、久米 正晃⁴⁾、鈴木 文博⁴⁾、水溜 浩弥^{4,5)}

¹⁾ JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 薬剤科、²⁾ JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 看護部、³⁾ JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 外科、⁴⁾ JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 緩和ケアチーム、⁵⁾ 胃腸科内科 高橋クリニック

P8-4 呼吸器専門病院の終末期において持続鎮静をミダゾラム注射液で開始したが、抵抗性を示した患者に対しフェノバルビタール注射液が奏効した症例

○後藤 桂輔、松木 美緒、岩田 梨沙、片岡 優太、荒木 有希、牧野 あずさ、初山 多恵、佐藤 秀紀

札幌南三条病院 薬剤部

P8-5 オピオイド鎮痛薬使用患者における外来診察の満足度調査～外来診察に対する薬剤師介入の検討～

○星野 剛史¹⁾、木下 史一¹⁾、柳下 昂太¹⁾、山口 香織¹⁾、小林 淳司¹⁾、原田 貴行¹⁾、萩原 雅人¹⁾、菅尾 高裕¹⁾、伊藤 智彰²⁾

¹⁾ 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科、²⁾ 順天堂大学医学部附属静岡病院 外科

P8-6 他剤無効な持続性吃逆に対して経口バクロフェン投与後、痙攣発作を認めた 1 例

○新井 成牧¹⁾、薄 竜太郎²⁾

¹⁾ 株式会社ツル薬局、²⁾ 医療法人博愛会 額田病院

P8-7 使用性向上を目的とした Mohs' ペーストシートの製剤設計

○廣瀬 香織¹⁾、長瀬 詩苑¹⁾、餅原 弘樹²⁾、川村 幸子²⁾、古賀 友之²⁾、花輪 剛久¹⁾

¹⁾ 東京理科大学 薬学部 薬学科 医療デザイン・臨床製剤設計学、²⁾ 医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック

P8-8 緩和ケア病棟入院患者が抗てんかん薬服用中に精神症状をきたした4症例の検討
～早期評価の必要性～

○井上 玲香、岩崎 祐子
姫路聖マリア病院 薬剤部

P8-9 令和6年度診療報酬改定前後に関わった末期心不全患者への退院支援

○中島 彰子¹⁾、西村 淳²⁾、中井 智恵¹⁾、合田 麻里奈¹⁾、西村 幸真¹⁾、河本 玲¹⁾、
木下 吉史¹⁾、石川 瑞季¹⁾、野崎 純子¹⁾、中筋 美保¹⁾
¹⁾ 香川県立中央病院 薬剤部、²⁾ 日本調剤 リツリン薬局

P8-10 子宮体がん患者の高Ca血症に対して原発性副甲状腺機能亢進症を疑った1例

○日高 あづみ¹⁾、座間 美沙¹⁾、財満 文¹⁾、柴 さや香¹⁾、中川 隼一¹⁾、林 隼輔¹⁾、
伊藤 やす江¹⁾、千田 操²⁾、濱口 明彦³⁾、長谷川 英雄¹⁾
¹⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部、²⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院 看護部、³⁾ 東京慈恵会医科大学
附属柏病院 腎臓・高血圧内科

ポスター発表 9 地域連携 1

6月21日(土) 14:40～15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長: 平山 武司(北里大学薬学部/北里大学北里研究所病院)

P9-1 地域連携推進に向けた緩和ケアチームの取り組み

○小林 由佳、斉藤 優子、鈴木 大雅、高橋 篤子、鈴木 修平、長瀬 輝頭
山形県立新庄病院 緩和ケアチーム

P9-2 病院薬剤師が介入する緩和ケア内科専用トレーニングレポートの活用

○曾根 敦子、池嶋 美帆、清水 佐良子、鈴木 洋平、鈴木 優司
東海大学医学部付属病院 薬剤部

P9-3 在宅療養支援診療所における夜間・休日のオピオイド需要に関する実態調査

○高橋 伸夫^{1,2)}、齊藤 直裕¹⁾、加藤 隆²⁾、久保田 洋子³⁾
¹⁾ 医療法人社団 三育会 新宿ヒロクリニック、²⁾ 千葉科学大学 薬学部、³⁾ 千葉大学 薬学研究院

P9-4 横浜市旭区・瀬谷区薬業連携研修会での有害事象(下痢・悪心嘔吐)の評価に関する理解度調査

○松本 光司^{1,2)}、近藤 一成²⁾、塩川 尚恵³⁾、松崎 貴志³⁾、東垂水 裕和⁴⁾、小串 興平⁴⁾、
西崎 百合絵⁵⁾、櫻井 学⁵⁾、泉 和孝⁶⁾、久保田 充明⁶⁾、日向 彰²⁾
¹⁾ クリエイト薬局 旭二俣川店、²⁾ 旭区薬剤師会、³⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 薬剤部、⁴⁾ 横浜旭
中央総合病院 薬剤部、⁵⁾ 神奈川県立がんセンター 薬剤科、⁶⁾ 瀬谷区薬剤師会

P9-5 在宅医療を想定した医療用麻薬4種と15薬剤との14日間注射薬配合変化試験

○近藤 匡慶¹⁾、源平 麻衣¹⁾、渡辺 圭¹⁾、吉田 真人¹⁾、深尾 彰平¹⁾、国分 秀也²⁾、
高瀬 久光³⁾、宗像 千恵⁴⁾、菅谷 量俊¹⁾、林 太祐¹⁾
¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部、²⁾ 湘南医療大学 薬学部、³⁾ 順天堂大学医学部附属浦安病院 薬剤科、
⁴⁾ 国際医療福祉大学 福岡薬学部

P9-6 緩和ケア提供施設在宅において薬剤師に必要な知識・技能の均一化に向けた在宅訪問時の薬剤師への質問、回答状況の調査

○稲田 圭介
ウエルシア薬局 新潟南出来島店

P9-7 薬局薬剤師が処方設計に関わったことで呼吸不全を伴う終末期の間質性肺炎の症状緩和に繋がった1症例

○上遠野 剛司¹⁾、長岡 智子²⁾
¹⁾ 株式会社サノ・ファーマシー 山王薬局、²⁾ 株式会社サノ・ファーマシー 佐野薬局 御野場店

P9-8 在宅がん緩和ケアにおける24時間体制の医薬品供給の実現に向けて～医療の担い手と医療提供施設としての使命は？～

○串田 一樹¹⁾、白石 丈也²⁾、佐々木 健³⁾、高浦 知沙³⁾、立川 靖之⁴⁾、西田 翔⁵⁾、羽鳥 雄貴⁵⁾、山本 健¹⁾、廣原 正宜¹⁾
¹⁾ 昭和薬科大学、²⁾ けや木薬局、³⁾ サンロクゴ訪問薬局、⁴⁾ あるま薬局、⁵⁾ 徳永薬局

P9-9 地域連携薬局における在宅緩和医療に関わる障壁についての調査研究

○長谷 圭悟¹⁾、下菊 早紀²⁾、中原 麻佑³⁾、面谷 幸子³⁾、名徳 倫明³⁾
¹⁾ 八尾市立病院 がん診療支援室 緩和ケアセンター/地域医療連携室、²⁾ 八尾市立病院 薬剤部、³⁾ 大阪大谷大学 薬学部

ポスター発表 10 チーム医療・その他

6月21日(土) 14:40~15:40 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールA)

座長: 細谷 治(日本赤十字社医療センター)

P10-1 乳がん専門病院における地域連携型骨転移カンサーボードの構築とそこでの薬剤師の役割

○川床 優子¹⁾、太良 哲彦^{2,3)}、坂本 仁美²⁾、鈴木 勝⁴⁾、東 龍太郎^{2,5)}、佐々木 道郎⁵⁾、有島 みつる^{2,5)}、坂口 由紀子^{2,5)}、石塚 みゆき^{2,5)}、江口 恵子⁵⁾、永山 淳⁶⁾
¹⁾ 社会医療法人博愛会相良病院 薬剤部、²⁾ 社会医療法人博愛会相良病院 緩和ケアチーム、³⁾ 社会医療法人博愛会相良病院 腫瘍内科、⁴⁾ 社会医療法人緑泉会米盛病院 整形外科、⁵⁾ 社会医療法人博愛会相良病院・さがらパース通りクリニック、⁶⁾ 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 緩和医療内科

P10-2 くも膜下出血の疼痛コントロールに関するプロジェクトチームの立ち上げとチーム内での薬剤師の活動報告

○金沢 優^{1,4)}、向井 優太郎^{1,4)}、加藤 あい^{1,4)}、山口 弥久^{1,4)}、山西 香織¹⁾、中野 一也¹⁾、中藏 伊知郎¹⁾、河野 由枝^{2,4)}、古谷 愛子²⁾、片岡 大治³⁾、畝 佳子¹⁾
¹⁾ 国立循環器病研究センター 薬剤部、²⁾ 国立循環器病研究センター 看護部、³⁾ 国立循環器病研究センター 脳神経外科部、⁴⁾ 国立循環器病研究センター 緩和ケアチーム

P10-3 患者および患者家族のQOLを高めたと考えられる2症例

○長井 彰子
田辺薬局 足立江北店

P10-4 医療用麻薬の服薬指導に関するマニュアル導入による保険薬局薬剤師の意識変化の調査

○梅野 美智瑠
株式会社スギ薬局 阪神調剤薬局 草津矢橋店

P10-5 緩和薬物療法認定薬剤師が麻薬管理指導加算算定とプレアボイド報告に与えた影響

○加藤 麻衣、吉本 佐紀、津崎 秀斗、中谷 智紘、川本 雄士、中井 優作、泉川 博子、八代 哲也、小牟田 豊

西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院 薬剤部

P10-6 先発医薬品レブラミドカプセルから後発医薬品レナリドミドカプセル「サワイ」への切り替え後の影響について

○清水 千種、坂本 安莉沙、榎 康晴

箕面市立病院 薬剤部

P10-7 緩和ケア病棟における麻薬の持参について

○藤井 麻佑子

安佐医師会病院 薬剤科

P10-8 採用薬剤に対する意識調査と新規採用への試み

○酒井 政幸、伊藤 比香里、早川 友里、吉村 洋樹、羽毛田 洋平、野村 雅子、沖山 葉子
丸子中央病院

P10-9 地域の中で必要とされる薬剤師を目指して ～メディカルカフェ「ぬくたあカフェ」で大切にしている心～

○隅田 美紀^{1,2,3,5}、西尾 守²、鷺津 潤爾^{2,4}、山下 修司⁵、林 秀樹⁵

¹ 患者サポート薬剤師事務所、² がんサポート東美濃、³ まるみはなの木薬局、⁴ 虹いろ在宅ケアクリニック、⁵ 岐阜薬科大学地域医療実践薬学研究室

P10-10 地域医療機関における麻薬処方の偏りと廃棄の課題～当院における実態調査～

○林 美香¹、須崎 貴徳¹、吉田 匡応²、佐藤 正夫³、弓削 征章⁴、石澤 正剛⁴

¹ 海津市医師会病院 薬剤室、² 海津市医師会病院 事務部、³ 海津市医師会病院 整形外科、⁴ 海津市医師会病院 内科

ポスター発表 11 がんに関連する症状緩和・スピリチュアルペイン

6月22日(日) 8:45～9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長：森 理保(徳島市民病院)

P11-1 緩和ケア病棟へ入院した向精神薬使用患者に対する薬剤師介入の効果

○熱海 幸恵¹、比留間 祐介¹、八戸 すず²

¹ 医療法人社団永生会みなみ野病院 薬剤科、² 医療法人社団永生会みなみ野病院 診療部

P11-2 紹介患者の血糖値上昇にアナモレリンが関与していた1症例

○星加 寿子¹、加藤 あゆみ¹、矢野 琢也¹、山本 将一郎³、福原 哲治²

¹ 住友別子病院 薬剤部、² 住友別子病院 緩和ケア科、³ 愛媛大学医学部付属病院 腫瘍センター

P11-3 切除不能膵臓癌患者へのアナモレリン早期導入で栄養状態を維持できた1例

○池上 沙織、入江 貞治、原田 周平、井上 知哉、原口 智彦、藤田 靖之、池田 能利子

日本赤十字社 長崎原爆病院 薬剤部

P11-4 飯塚病院におけるアナモレリン塩酸塩錠の使用状況調査

○稲員 慎、梅田 勇一、皆元 文恵、上西 真理子

飯塚病院

P11-5 ケタミンの投与により気分の落ち込みが改善した一例

○相内 志織¹⁾、番場 麻菜美^{1,2)}、加藤 香穂^{1,2)}、小野 優紀¹⁾、柳本 千景²⁾、山田 真奈美²⁾、寺澤 三和²⁾、鹿内 咲楽^{2,3)}、太田 智裕^{2,3)}、龍 恵美⁴⁾、的場 元弘^{2,3)}

¹⁾ 青森県立中央病院 薬剤部、²⁾ 青森県立中央病院 緩和ケアチーム、³⁾ 青森県立中央病院 緩和医療科、⁴⁾ 長崎大学病院 薬剤部

P11-6 当院におけるせん妄に対するブロナンセリンテープの使用状況調査

○皆元 文恵、梅田 勇一、上西 真理子、稲員 慎

飯塚病院 薬剤部

P11-7 頸椎転移により内服困難ながん患者の身体的苦痛とスピリチュアルペインに対応した1例

○金澤 裕子¹⁾、加藤 あゆみ¹⁾、福島 与詩香¹⁾、岡村 由美子²⁾、岩崎 雅江³⁾、伊勢 雄也¹⁾

¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部、²⁾ 日本医科大学付属病院 看護部、³⁾ 日本医科大学付属病院 緩和ケア科

P11-8 ケミカルコーピングに潜在するスピリチュアルペイン～在宅療養患者の苦しみとは～

○山崎 由香¹⁾、嵯峨 夕子²⁾、長久 栄子³⁾

¹⁾ 金沢古府記念病院、²⁾ 真生会富山病院在宅統括室、³⁾ 真生会富山病院緩和ケアセンター

P11-9 胃がん終末期患者のスピリチュアルペインに関与した一症例

○三浦 篤史、遠藤 真樹、宮下 貴浩

JA長野厚生連 佐久総合病院 薬剤部

P11-10 がん経験者薬剤師としてのがんサロン活動、教育活動、および緩和ケア研修会における実践報告

○薄羽 八重

源泉堂薬局

ポスター発表 12 がんに関連する症状緩和

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長: 吉澤 一巳(東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室)

P12-1 リンパ浮腫を伴うオピオイド抵抗性疼痛に対してデキサメタゾンが著効した一例

○黒木 優歩¹⁾、中島 隆司¹⁾、中村 聡志¹⁾、愛甲 隼人¹⁾、藤崎 崇史¹⁾、東 和佳奈¹⁾、上村 豪¹⁾、木原 研二²⁾、長谷 茂也²⁾、永田 行隆³⁾、本屋 敏郎¹⁾

¹⁾ 垂水市立医療センター垂水中央病院 薬剤室、²⁾ 垂水市立医療センター垂水中央病院 外科、³⁾ 垂水市立医療センター垂水中央病院 放射線科

P12-2 当院における骨修飾薬の使用状況と未治療症例における問題点の検討

○川合 正矩、藤掛 沙織、片山 歳也

JCHO 東京新宿メディカルセンター 薬剤部

P12-3 在宅医療における多職種連携により持続的鎮静が実施された一例

○小澁 朝子¹⁾、堤 壮吾²⁾、金子 瑞希¹⁾、大沼 弘和¹⁾、大野 朋子¹⁾、開田 脩平²⁾

¹⁾ 株式会社 ak ホールディングス 上永谷薬局、²⁾ 医療法人みらい みらい在宅クリニック港南

P12-4 当院の緩和ケア病棟患者の皮下投与について調査

○尾形 美絵、近藤 和宏、新関 みどり、羽生 智宏、長澤 欣弘、中村 慎一郎、鈴木 美結、田村 和彦

大分県済生会日田病院 薬剤部

P12-5 がん患者に対するゲーファピキサントの使用実態調査

○関 裕佳里、杉山 哲大

一般財団法人 津山慈風会 津山中央病院 薬剤部

P12-6 全人的苦痛を捉えた介入によりロラゼパムを導入した事でケミカルコーピングを早期に回避できた症例

○尾上 裕太、江田 未来

新小文字病院 薬剤科

P12-7 乳がん脳転移の症状コントロールの過程でミダゾラム使用の目的を変更し苦痛緩和が可能となった一例

○鷹野 理

等潤病院

P12-8 当院のプロナンセリンテープ使用による消化器症状軽減の調査

○佐野 篤、石野 愛弓

社会医療法人同仁会 耳原総合病院

P12-9 アナモレリンによりがん悪液質が改善したと考えられた切除不能胃がんの1例

○田中 康裕¹⁾、山崎 祐樹¹⁾、露久保 辰夫²⁾

¹⁾ 輝山会記念病院 薬剤部、²⁾ 輝山会記念病院 総合診療科

P12-10 緩和ケアチーム介入患者の終末期鎮静における経口摂取状況を含めた実態調査

○今中 智子、小畑 伯子

社会福祉法人聖母会聖母病院

ポスター発表 13 がんに関連する症状緩和・緩和ケアチーム

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長: 嶋 亮太(慶應義塾大学病院薬剤部)

P13-1 腎機能障害を伴う肺癌患者に対し、モルヒネ塩酸塩水和物液の定時内服で呼吸困難の緩和を行えた1例

○渡邊 理基¹⁾、長谷川 和司¹⁾、海老原 京子¹⁾、蒲池 みどり¹⁾、鶴重 千加子²⁾

¹⁾ 総合守谷第一病院 薬剤科、²⁾ 総合守谷第一病院 呼吸器内科

P13-2 在宅医療にて Mohs 軟膏を使用した 1 症例

○姜 元美¹⁾、久保寺 光徳¹⁾、奥津 輝男²⁾

¹⁾ 株式会社ニック しいの木薬局、²⁾ 医療法人社団杏月会 はだの在宅クリニック

P13-3 保険薬局における乳癌患者の皮膚湿潤に対する局所療法の現状と課題

○井上 示子¹⁾、島田 顕¹⁾、竹村 智行¹⁾、奥津 輝夫²⁾、安部 理恵³⁾

¹⁾ 株式会社 メディカルガーデン ガーデン薬局西口店、²⁾ はだの在宅クリニック、³⁾ 看護クラーク秦野

P13-4 呼吸困難に対するモルヒネ注がケミカルコーピングと考えられた大腸癌肺転移の 1 症例

○船田 佳苗¹⁾、仲田 文造²⁾、松本 美里¹⁾、藤本 明由美¹⁾、台野 佳代¹⁾

¹⁾ 市立柏原病院 薬剤部、²⁾ 市立柏原病院 外科

P13-5 レベチラセタム点滴静注の皮下注射を行った一症例

○永津 由貴、添田 早貴

友田病院 薬剤科

P13-6 緩和ケア病棟入院患者におけるクレアチンクリアランスおよびシスタチン C を用いた eGFR の比較検討

○佐藤 到^{1,2)}

¹⁾ 城北病院 腫瘍内科・緩和ケア内科、²⁾ 上越地域医療センター病院 内科

P13-7 オピオイド回診運用変更後の実態調査 (続報)

○中原 萌子、高武 嘉道、大橋 邦央、藤瀬 陽子、橋本 雅司

NHO 九州医療センター 薬剤部

P13-8 内服困難な心不全患者に出現したせん妄に対してプロナンセリンテープが有効であった 2 症例

○鳥山 陽子¹⁾、諫見 圭佑¹⁾、上之園 咲¹⁾、馬籠 さつき²⁾、安庭 愛子³⁾

¹⁾ 国立病院機構 鹿児島医療センター 薬剤部、²⁾ 国立病院機構 鹿児島医療センター 看護部、³⁾ 国立病院機構 鹿児島医療センター 精神科

P13-9 エヌトレクチニブ導入患者に薬剤師と緩和ケアチームが協働し介入した一例

○篠宮 葉月紀^{1,2)}、原田 真由美^{1,2)}、野口 真里亜¹⁾、小磯 雅美²⁾、新堂 光太郎²⁾、
奥山 隆二²⁾、益子 里美¹⁾

¹⁾ 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院 薬剤科、²⁾ 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院 緩和ケアチーム

P13-10 造血管腫瘍患者における緩和ケアチームの介入に関する調査

○小玉 美希子¹⁾、植田 裕美¹⁾、折方 琴音¹⁾、井後 彩加¹⁾、櫛田 宏幸¹⁾、庄野 裕志¹⁾、
佐光 留美¹⁾、島内 美紀²⁾、川村 知裕³⁾、上島 成也³⁾

¹⁾ 大阪南医療センター 薬剤部、²⁾ 大阪南医療センター 看護部、³⁾ 大阪南医療センター 緩和ケア内科

ポスター発表 14 緩和ケアチーム・管理・運用

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)
座長:横山 晴子(株式会社アシスト あやめ薬局)

P14-1 緩和ケア病棟のない当院での緩和ケアチームの取り組みについて

○坂本 亜佐子、木下 智広、岩田 和弥
唐津赤十字病院 薬剤部

P14-2 緩和薬物療法認定薬剤師を中心とした緩和ケアチーム再始動への取り組みと活動実績

○浅木 基裕¹⁾、松尾 美保²⁾
¹⁾ 十全総合病院 薬剤科、²⁾ 十全総合病院 看護部

P14-3 当院における緩和ケアチーム薬剤師の業務拡大に向けた取り組みと課題

○松尾 尚美^{1,2)}、前田 祐香^{1,2)}、千田 祥子^{1,2)}、三宅 智菜美^{1,2)}、樋口 文子^{1,2)}、
仲田 浩成^{1,3)}、清水 裕彰¹⁾
¹⁾ NHO 九州がんセンター 薬剤部、²⁾ NHO 九州がんセンター 緩和ケアチーム、³⁾ NHO 九州がんセン
ター 臨床研究センター

P14-4 ケアミックス病院における緩和ケアチームの関わり～入院を繰り返しながら独居での在宅を継続できている一症例～

○西澤 さとみ、滝澤 康志
飯山赤十字病院 薬剤部

P14-5 当院のがんサポートチームにおける薬学的介入の実態調査

○岡部 真実¹⁾、三好 宏和¹⁾、佐伯 祐希子²⁾、門田 芳³⁾、矢野 博子⁴⁾、永井 美緒³⁾、
村上 通康¹⁾
¹⁾ 松山赤十字病院 薬剤部、²⁾ 松山赤十字病院 看護部、³⁾ 松山赤十字病院 精神科、⁴⁾ 松山赤十字病院 外科

P14-6 当薬局における医療用麻薬の使用実態調査

○上野 悦子、礪貝 健汰、勝呂 亜矢子、蔵田 純子、橋口 真紀子、吉岡 淳子、原 歳子、
伊東 諒、島津 明日香、犬伏 洋夫
越前堀薬局

P14-7 クオール(株)薬局における医療用麻薬の調剤実績推移

○濱口 尚美¹⁾、近井 優斗²⁾、中村 真人²⁾、石井 新平²⁾、大村 真以²⁾、武井 彩奈²⁾、
石井 豊²⁾、高橋 直子²⁾、宮本 彩音²⁾、植島 由希子²⁾、島貫 英二²⁾
¹⁾ クオール株式会社 クオール薬局聖マリアンナ医大前店、²⁾ クオール株式会社

P14-8 オピオイド使用患者の周術期疼痛管理における薬剤師の関わり

○有馬 亜希、宮田 祥一、松本 高広
東邦大学医療センター大森病院

P14-9 入院患者における医療用麻薬自己管理に対する当院スタッフへの意識調査

○桐生 浩子¹⁾、今西 義紀^{1,2)}、大矢知 立城¹⁾、近藤 加奈子^{1,2)}、大原 康代^{2,3)}、
鍛地 奈津子^{2,3)}、西田 順二^{2,4)}、町支 秀樹^{2,5)}、伊藤 久美子¹⁾
¹⁾ 桑名市総合医療センター 薬剤部、²⁾ 桑名市総合医療センター 緩和ケアチーム、³⁾ 桑名市総合医療センター
看護部、⁴⁾ 桑名市総合医療センター 腎臓内科、⁵⁾ 桑名市総合医療センター 外科

P14-10 オピオイド適正使用を目的としたオピオイドスイッチマニュアル作成

○杉本 陽菜、姫野 紘政、島袋 朝太郎

中頭病院 薬剤部

ポスター発表 15 外来患者への介入

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールA)

座長:石原 正志(岐阜大学医学部附属病院薬剤部)

P15-1 抗がん剤治療終了後も薬剤師外来を継続することにより疼痛コントロール目的の入院を回避することができた一症例

○大畑 彩也香、松本 菜摘、岡井 由美子

医療法人 JR 広島病院 薬剤部

P15-2 電話と LINE のフォローアップツールを併用することによりカペシタビンで起こる副作用に早期対応出来た症例

○小原 将太¹⁾、石田 竜也²⁾

¹⁾ I&H 株式会社 阪神調剤薬局神大店、²⁾ I&H 株式会社 西日本第二営業部

P15-3 薬剤師外来をきっかけに緩和ケアチームで介入し大腸癌術後補助化学療法中の患者を支援した 1 症例

○原田 真由美^{1,2)}、篠宮 葉月紀^{1,2)}、小磯 雅美^{2,3)}、木ノ内(小澤) 満玲²⁾、飯塚 なつみ³⁾、奥山 隆二²⁾、畑地 健一郎⁴⁾、益子 里美¹⁾

¹⁾ 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院 薬剤科、²⁾ 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院 緩和ケアチーム、³⁾ 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院 看護部、⁴⁾ 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院 外科

P15-4 当院におけるオピオイド導入外来の取り組み

○小杉 明日香^{1,4)}、浅井 恒志^{1,4)}、河口 義典^{1,4)}、相馬 愛子^{2,4)}、森 千晴^{2,4)}、早川 史広^{3,4)}、佐藤 尚子^{3,4)}、山本 敦子^{3,4)}、藤光 康信^{3,4)}、橋本 敦^{3,4)}

¹⁾ 岡崎市民病院 薬局、²⁾ 岡崎市民病院 看護局、³⁾ 岡崎市民病院 緩和ケア内科、⁴⁾ 岡崎市民病院 緩和ケアチーム

P15-5 オピオイド鎮痛薬導入の外来患者へテレフォンフォローを行った 1 症例

○高橋 早織¹⁾、岩井 大¹⁾、野村 まなみ²⁾

¹⁾ 医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 薬剤部、²⁾ 医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 疼痛緩和内科

P15-6 外来緩和ケア患者への薬剤師介入の取り組みと課題

○奥田 智子¹⁾、橋間 伸行¹⁾、石川 晶美¹⁾、沖田 知恵²⁾、辻本 浩³⁾、山川 宣⁴⁾

¹⁾ 神鋼記念病院 診療技術部 薬剤室、²⁾ 神鋼記念病院 看護部、³⁾ 神鋼記念病院 精神科、⁴⁾ 神鋼記念病院 緩和治療科

P15-7 外来がん患者に対して化学療法連携サマリーを活用し疼痛コントロールを行えた 1 症例

○山田 憲和¹⁾、服部 昌和²⁾

¹⁾ 福井厚生病院 薬剤課、²⁾ 福井厚生病院 消化器・一般外科

P15-8 マイナンバーカードから得られた医療情報により悪性腫瘍の早期発見に繋がった 2 例

○梅山 克寿¹⁾、宮田 広樹²⁾

¹⁾ 日本調剤株式会社 佐久薬局、²⁾ 日本調剤株式会社 教育情報部

P15-9 地域薬局の外来において多職種連携による疼痛緩和ケアを実践した血液透析患者の一例

○鈴木 寛、小川 裕子、漆畑 理帆、幾田 志保、森 満希子、山内 克哉
株式会社やまうち薬局

P15-10 薬局における業務効率化を通じた持続可能なホスピス施設への支援

○山口 祥¹⁾、原田 寿²⁾
¹⁾ 日本調剤 藤沢薬局、²⁾ 日本調剤株式会社 在宅医療部

ポスター発表 16 地域連携 2

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長: 辻井 聡容(公立豊岡病院組合立豊岡病院)

P16-1 当院におけるオピオイド疼痛管理の実態調査

○川口 祥子、竹永 悠司
社会福祉法人 日本医療伝道会 総合病院 衣笠病院 薬剤科

P16-2 外来がん患者を対象としたオピオイド導入指導における院内外連携の現状と課題に関する質的研究

○白羽 里帆¹⁾、山本 泰大¹⁾、西脇 可織²⁾、近藤 綾子¹⁾、平野 茂樹¹⁾、出口 裕子¹⁾
¹⁾ 小牧市民病院 薬局、²⁾ 小牧市民病院 看護局

P16-3 当院の緩和医療における薬業連携の現状と改善に向けた試み

○音羽 美貴、澤村 忠輝、安井 みのり、服部 雄司
独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター

P16-4 在宅緩和ケアにおける退院時カンファレンスへの病院薬剤師、薬局薬剤師参加の取り組みとその成果

○壁谷 めぐみ^{1,2)}、神戸 奈央子^{1,2)}、明野 愛¹⁾、北原 悦子²⁾、山本 奈央子^{2,3)}、加藤 裕子³⁾、
所 千晶^{2,4)}、伊奈 研次^{2,5)}、粥川 哲^{2,6)}、湯浅 周¹⁾
¹⁾ 名古屋記念病院 薬剤部、²⁾ 名古屋記念病院財団 緩和ケアチーム、³⁾ 名古屋記念病院 医療社会事業相談室、
⁴⁾ 新生会第一病院 看護部、⁵⁾ 新生会第一病院 内科、⁶⁾ 名古屋記念病院 血液・化学療法内科

P16-5 シームレスな在宅移行を目指した PCA ポンプ導入に関する取り組み

○林 春乃、村上 翔梧、西牟田 昇吾、佐古 守人、黒沢 秀夫
東住吉森本病院 薬剤部

P16-6 薬業連携によりがん終末期患者の在宅移行に関わることであった症例

○谷藤 隼人¹⁾、鈴木 直哉²⁾、佐々木 剛²⁾、谷口 亮央²⁾、中島 史雄²⁾
¹⁾ ナカジマ薬局 札幌在宅調剤センター、²⁾ 株式会社 ナカジマ薬局

P16-7 外来オピオイド導入患者に関して保険薬局から送付されたトレーシングレポートの調査

○今井 視保子、葛谷 真理、高原 悠子、高木 裕介、木全 司
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院薬剤部

P16-8 若手病院薬剤師が在宅支援診療所での研修を通して気づいたこと

○座間 美沙¹⁾、財満 文¹⁾、日高 あづみ¹⁾、柴 さや香¹⁾、中川 隼一¹⁾、林 隼輔¹⁾、餅原 弘樹²⁾、長谷川 英雄¹⁾

¹⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部、²⁾ 医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック

P16-9 病院薬剤師が在宅療養支援診療所及び在宅医療特化型調剤薬局での研修から学んだこと

○財満 文¹⁾、座間 美沙¹⁾、日高 あづみ¹⁾、柴 さや香¹⁾、中川 隼一¹⁾、林 隼輔¹⁾、高柳 論也²⁾、餅原 弘樹³⁾、長谷川 英雄¹⁾

¹⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部、²⁾ 株式会社あゆみ あかり薬局、³⁾ 医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック

P16-10 薬剤師の無菌調剤設備についての知識や意識に関する調査

○大久保 敦¹⁾、大谷 陸丸²⁾、吉野 剛大³⁾、東 彩乃⁴⁾、高浜 亜季子⁵⁾、秋元 博晶⁶⁾

¹⁾ 日本調剤 安佐北薬局、²⁾ 日本調剤 浦河町薬局、³⁾ 日本調剤 八潮薬局、⁴⁾ 日本調剤 三鷹南口薬局、⁵⁾ 日本調剤 元町薬局、⁶⁾ 日本調剤株式会社が在宅医療部

P16-11 オピオイドの減量に伴い副作用を軽減し、疼痛コントロールができた一例

○馬場 章人、小野 雅貴、高橋 里菜、小黒 佳代子

株式会社ファーマ・プラス プラス薬局高崎吉井店

ポスター発表 17 在宅医療 1

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールA)

座長:北中 純一(兵庫医科大学薬学部薬物中毒治療学研究室)

P17-1 メサドン塩酸塩錠からフェンタニルクエン酸塩貼付剤へスイッチした在宅療養中の肺がん終末期患者の一例

○大野 朋子¹⁾、鈴木 洸³⁾、松井 美月²⁾、小澁 朝子¹⁾、関口 寛樹²⁾、大沼 弘和¹⁾、金子 瑞希¹⁾、開田 脩平³⁾

¹⁾ 株式会社 ak ホールディングス 上永谷薬局、²⁾ 株式会社 ak ホールディングス ak 薬局西横浜在宅調剤センター店、³⁾ 医療法人みらい みらい在宅クリニック港南

P17-2 多職種と連携し、患者と患者家族の希望に沿った在宅緩和ケアができた一例

○松井 美月¹⁾、高野 真吾¹⁾、大野 朋子²⁾、西川 健太³⁾、沖田 将人³⁾

¹⁾ 株式会社 ak ホールディングス ak 薬局西横浜在宅調剤センター店、²⁾ 株式会社 ak ホールディングス 上永谷薬局、³⁾ 医療法人みらい みらい在宅クリニック本院

P17-3 在宅緩和ケアにおいて経口・貼付オピオイドから持続皮下注射に切り替える際の過量投与リスク回避のための用量設定についての検討

○蒔田 皓和¹⁾、青木 翔太²⁾、市村 友樹³⁾

¹⁾ ピノキオ薬局三津屋店、²⁾ ピノキオ薬局中央店、³⁾ ピノキオ薬局蘇原店

P17-4 高用量持続皮下注のオピオイドスイッチおよびメサドン併用により自宅退院が可能となった一症例

○細見 真世¹⁾、高子 優子¹⁾、波多野 友美¹⁾、澁谷 奈穂¹⁾、近藤 万友美¹⁾、正置 耕一¹⁾、加藤 豪²⁾、奥本 龍夫²⁾、吉岡 睦展¹⁾

¹⁾ 宝塚市立病院 薬剤部、²⁾ 同 緩和ケア内科

P17-5 薬剤師による定期的な疼痛評価の結果をオピオイドスイッチングの提案に活用し、患者のADLが顕著に改善した事例

○小野 雅貴^{1,2)}、新井 孝文²⁾、馬場 草人¹⁾、小黒 佳代子¹⁾

¹⁾ 株式会社ファーマ・プラス プラス薬局高崎吉井店、²⁾ 株式会社ファーマ・プラス プラス薬局みさと店

P17-6 在宅で硬膜外鎮痛法を継続することで患者・家族の希望に沿った看取りにつながった一症例

○西村 淳

日本調剤 リツリン薬局

P17-7 「オキシコドン耐性が疑われるホスピス末期がん患者に対して薬局薬剤師がオピオイドスイッチングに関与した1症例」

○大河内 貴浩¹⁾、島田 顕¹⁾、相澤 政明²⁾、小林 弘忠³⁾

¹⁾ ガーデン薬局厚木店、²⁾ ガーデン薬局西口店、³⁾ 株式会社メディカルガーデン

P17-8 多職種連携によって難治性呼吸困難患者に対し持続的深い鎮静により在宅看取りが可能となった症例

○金辻 純子¹⁾、西村 豊²⁾、大喜田 光二³⁾、原田 奈津子⁴⁾、平本 秀二⁴⁾

¹⁾ みやこ薬局 薬大前店、²⁾ みやこ薬局 本店、³⁾ 洛和会訪問看護ステーション音羽、⁴⁾ 医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック

P17-9 施設在宅におけるPCAポンプを使用してくも膜下鎮痛法を実施した一症例

○唐澤 武司¹⁾、三宅 邦智²⁾、鷺崎 慎¹⁾、室賀 慎二¹⁾、郷渡 慶一¹⁾、片桐 聡太¹⁾、羽田 悠輝¹⁾、夏刈 英樹¹⁾、堀越 裕里¹⁾、高橋 愛香¹⁾、島田 顕¹⁾

¹⁾ 株式会社メディカルガーデン ガーデン薬局 河原口店、²⁾ 医療法人社団 大和会 相模原東クリニック

P17-10 在宅移行時の連携不足に苦慮しながらも服薬支援により患者の希望する治療を実現できた1事例

○三浦 千智、石崎 宏人、白石 真也、竹井 大智、中平 祐規子、宮部 祐輔、阿部 恭宜
有限会社あじさい薬局 北本町店

ポスター発表 18 在宅医療 2

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールA)

座長: 笠原 庸子(秋本クリニック)

P18-1 在宅緩和ケアにおいて薬局薬剤師が訪問看護師と連携することでケアの質の向上および疼痛をはじめとする症状緩和が可能であった膵臓がんの症例

○五條 元量¹⁾、石原 雅代²⁾、釘宮 舞²⁾、矢野 温子²⁾、大島 順子³⁾、笹川 高孔³⁾、鄭 唯学¹⁾、江口 真理子⁴⁾、西村 祐哉⁵⁾、原 千尋⁵⁾

¹⁾ (株)大賀薬局 福岡早良在宅調剤センター、²⁾ (株)大賀薬局薬院大通り店、³⁾ (株)大賀薬局 粕屋別府店、⁴⁾ (株)大賀薬局 野芥調剤店、⁵⁾ リバティ訪問看護ステーション 福岡中央

P18-2 在宅緩和ケアにおける薬局薬剤師の役割~PCAポンプを用いた在宅療養への移行に貢献した一症例~

○東 彩乃¹⁾、藤田 龍²⁾

¹⁾ 日本調剤株式会社 三鷹南口薬局、²⁾ 日本調剤株式会社 在宅医療部

P18-3 病院薬剤師が関わった在宅緩和ケア二症例

○齋田 和江^{1,5)}、塩野 昭彦^{2,5)}、小池 瞬^{3,5)}、齋藤 綾^{3,5)}、磯田 美深^{2,5)}、佐々木 洋和^{4,5)}

¹⁾ 公立富岡総合病院 薬剤部、²⁾ 公立富岡総合病院 診療部、³⁾ 公立富岡総合病院 看護部、⁴⁾ 公立富岡総合病院 事務部、⁵⁾ 公立富岡総合病院 緩和ケアチーム

P18-4 在宅療養患者においてメサドンの導入を行い、疼痛コントロールの改善と患者 QOL 向上に寄与した一例

○秋田 章裕、鈴木 邦彦、山口 峻平

ワイズ株式会社 つなぐ薬局足立

P18-5 保険薬局における在宅業務の分離と在宅訪問専任薬剤師の配置によりスムーズな多職種連携で在宅緩和ケアに移行した認知症の 1 例

○山田 幸¹⁾、五條 元量¹⁾、毎床 比呂冬¹⁾、富山 万悠子¹⁾、大島 順子²⁾、渡邊 崇²⁾、河原 悠太²⁾、笹川 嵩孔²⁾、鄭 唯学¹⁾、江口 真理子³⁾

¹⁾ (株) 大賀薬局 福岡早良在宅調剤センター、²⁾ (株) 大賀薬局 粕屋別府店、³⁾ (株) 大賀薬局 野芥調剤店

P18-6 独居の終末期がん患者に薬剤師が在宅訪問を行う中で、プロクロルペラジンによるジスキネジアを早期発見し、対処できた 1 症例

○米本 奈央¹⁾、逆井 慎吾²⁾、松原 つぐみ³⁾、桐山 祐紀江⁴⁾、本田 雅志⁵⁾、河井 伸朗⁶⁾

¹⁾ みよの台薬局株式会社 みよの台薬局 品川二葉店、²⁾ みよの台薬局 (株) みよの台薬局 三ツ沢店、³⁾ みよの台薬局 (株) みよの台薬局 大泉学園店、⁴⁾ みよの台薬局 (株) そうごう薬局 在宅調剤センター青砥店、⁵⁾ 総合メディカル株式会社、⁶⁾ みよの台薬局株式会社

P18-7 複数回にわたる療養環境の移行を乗り越え訪問薬剤師としてシームレスな医療提供に貢献した終末期がん患者の一例

○森 満希子、鈴木 寛、村上 大希、山内 克哉

株式会社やまうち薬局

P18-8 施設型ホスピスにおける筋萎縮性側索硬化症末期患者のケースカンファレンス

○島田 顕¹⁾、平井 郁里²⁾

¹⁾ ガーデン薬局西口店、²⁾ 看護クラーク鷺沼

P18-9 在宅がん末期患者を PCA ポンプ 2 台繋いで対応した事例

○佐藤 雄紀、加藤 誠一、寺戸 靖、近藤 澄子

株式会社ピノキオ薬局

P18-10 終末期心不全患者がカテコラミン持続投与で在宅移行後に発生した配合変化に対する対策の事例報告

○佐久間 詠理¹⁾、渡邊 暁史¹⁾、柿沼 朋子³⁾、川内 潤也¹⁾、渡邊 淳子²⁾

¹⁾ 医療法人社団淳友会 わたホームクリニック、²⁾ 医療法人社団淳友会 わたクリニック、³⁾ あしたも笑顔訪問看護ステーション

ポスター発表 19 在宅医療・チーム医療・管理・運用

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールA)

座長:小澤 康久(徳洲会湘南鎌倉総合病院薬剤部)

P19-1 当薬局での廃棄麻薬に関する実態と課題

○鍋田 貴裕¹⁾、柴田 るり子¹⁾、吉野 楽¹⁾、円城寺 竜太郎¹⁾、時光 朗¹⁾、中塚 英夫²⁾、黒木 光良²⁾、高橋 眞生²⁾

¹⁾ カネマタ薬局中央店、²⁾ カネマタ薬局

P19-2 在宅医療における麻薬注射薬の処方設計支援や疑義照会等の対応に関する課題の調査

○岡 将広¹⁾、今井 英詞²⁾

¹⁾ みよの台薬局(株) みよの台薬局 要町店、²⁾ みよの台薬局(株)

P19-3 緩和ケア病棟における薬剤管理業務の実態調査

○岩田 佳之、川島 美智子

地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院 薬剤局

P19-4 自宅療養中のがん終末期患者のACPに薬剤師が関与した一例

○関口 寛樹^{1,2,3)}、開田 脩平³⁾、松井 美月¹⁾、小湊 朝子²⁾、大沼 弘和²⁾、金子 瑞希²⁾、大野 朋子²⁾

¹⁾ 株式会社 ak ホールディングス ak 薬局 西横浜在宅調剤センター店、²⁾ 株式会社 ak ホールディングス 上永谷薬局、³⁾ 医療法人みらい みらい在宅クリニック港南

P19-5 他職種からの相談を受け、苦痛症状のコントロール不良例に介入し在宅看取りに至った一例

○白石 丈也、白石 暢子、阿曾 正史

けや木薬局

P19-6 肛門がん患者のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に薬剤師が支援した一例

○明野 愛¹⁾、伊藤 紳人¹⁾、壁谷 めぐみ^{1,2)}、岡本 千晴¹⁾、北原 悦子^{2,3)}、湯浅 周¹⁾

¹⁾ 名古屋記念病院薬剤部、²⁾ 名古屋記念病院緩和ケアチーム、³⁾ 名古屋記念病院看護部

P19-7 レセプト情報・特定健診等情報データベースオープンデータを用いたトラマドール製剤の使用量と麻薬管理指導加算、緩和ケア加算の年次および地域別の関連性の検討

○輿石 徹、松沼 悟、片上 由季子、吉元 公一

東京医科大学八王子医療センター 薬剤部

P19-8 当院緩和ケア病棟におけるオピオイド投与経路の変化

○加藤 あゆみ、星加 寿子、松本 大輝、矢野 琢也

住友別子病院 薬剤部

P19-9 入院を拒否する患者の疼痛コントロールにおける多職種連携の効果 短期入院で疼痛管理に成功した1症例

○坂野 玲子¹⁾、吉岡 美紀²⁾、原田 侑紀²⁾、手島 真理子²⁾、山口 朋代²⁾、佐竹 主道³⁾、佐原 敏之¹⁾

¹⁾ JCHO 星ヶ丘医療センター 薬剤部、²⁾ JCHO 星ヶ丘医療センター 看護部、³⁾ JCHO 星ヶ丘医療センター 緩和ケア科

P19-10 当院の緩和ケア病棟における遺族会の実施状況～薬剤師の視点から～

○宮武 望、塩崎 友美、五十嵐 美緒、船間 ひとみ、長谷川 喜一、佃 博
和泉市立総合医療センター

ポスター発表 20 教育

6月22日(日) 8:45～9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールA)

座長: 岡本 禎晃(敦賀市立看護大学)

P20-1 多職種を対象とした「苦痛緩和のための鎮静」に関する現状調査と教育の効果

○坂本 好美¹⁾、成田 千津¹⁾、松田 亜莉沙¹⁾、上野 美樹¹⁾、山田 咲良¹⁾、亀川 美貴¹⁾、信太 弥栄子²⁾、高瀬 由佳²⁾、徳原 大介¹⁾、飯田 哲士³⁾

¹⁾ 社会医療法人社団 三思会 東名厚木病院 薬剤科、²⁾ 同 看護部、³⁾ 同 医務部

P20-2 「兵庫かんわケアサークル 薬剤師がつなぐ緩和ケアの輪」の立ち上げと今後の展望～アンケート調査の結果を踏まえて～

○中永 かおり¹⁾、飯田 真之²⁾、岡本 禎晃³⁾、金子 健^{4,5)}、伊東 俊雅⁶⁾、辻井 聡容¹⁾

¹⁾ 公立豊岡病院組合立 豊岡病院 薬剤部、²⁾ 神戸大学医学部附属病院 薬剤部、³⁾ 敦賀市立看護大学 看護学部薬理学、⁴⁾ 慶應義塾大学病院 薬剤部、⁵⁾ 慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター、⁶⁾ 東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部

P20-3 地域緩和ケアネットワーク研修が保険薬局薬剤師のスキル向上に与える効果

○大村 士朗¹⁾、井手 良太¹⁾、竹内 孝明¹⁾、山下 哲也¹⁾、森 佑輔¹⁾、青野 章¹⁾、今村 牧夫²⁾、中島 美穂²⁾

¹⁾ 株式会社エム・エス経営企画 サンヨー薬局グループ、²⁾ 一般財団法人 倉敷成人病センター 薬剤科

P20-4 病棟配属前の新人・若手薬剤師を対象とした緩和ケアおよび医療用麻薬の適正使用に関する研修効果と課題

○小玉 幸与¹⁾、槌谷 佳那子¹⁾、内山 耕作¹⁾、鈴川 誠¹⁾、河内 誠²⁾、出口 真人¹⁾、今西 忠宏¹⁾

¹⁾ JA 愛知厚生連 江南厚生病院 薬剤部、²⁾ JA 愛知厚生連 江南厚生病院 診療協同部臨床検査室

P20-5 薬剤師による病棟看護師への医療用麻薬に関する勉強会の効果

○潮田 純平^{1,3)}、石田 安奈²⁾、青木 竣哉¹⁾、高田 勝利¹⁾、須鎌 建¹⁾、細谷 治³⁾、君和田 貢¹⁾

¹⁾ 成田赤十字病院 薬剤部、²⁾ 成田赤十字病院 看護部、³⁾ 日本赤十字社医療センター 薬剤部

P20-6 地域緩和ケアネットワーク研修における研修施設の体制構築の模索

○高屋敷 奈々¹⁾、後藤 敏也¹⁾、濱田 菜緒¹⁾、功刀 さおり¹⁾、佐々木 直子²⁾、中澤 秀雄³⁾、太田 敦代¹⁾

¹⁾ 磐田市立総合病院 薬剤部、²⁾ 株式会社ヒロム ささがせ薬局、³⁾ 磐田市立総合病院 緩和医療科

P20-7 COVID-19 流行下における薬学部実務実習で実施した緩和ケア実習の教育効果

○川田 哲史¹⁾、大津 友紀²⁾、角 康隆¹⁾、井上 貴文¹⁾、武田 佳子¹⁾、江越 菜月¹⁾、塩入 真衣¹⁾、静永 紘実¹⁾、兼重 晋¹⁾、神村 英利^{1,2)}

¹⁾ 福岡大学病院 薬剤部、²⁾ 福岡大学薬学部 病院薬学

P20-8 金城学院大学における薬学専門科目「緩和医療入門」のCS分析

○野田 康弘

金城学院大学 薬学部 薬学科

P20-9 地域病院への薬剤師出向による緩和ケア向上に向けた取り組み

○榎南 祥太¹⁾、北西 由紀³⁾、横川 文也³⁾、井藤 彩³⁾、宮 綾子³⁾、中林 由加³⁾、
高垣 美有紀³⁾、草野 美穂³⁾、中倉 兵庫²⁾、西原 雅美¹⁾、芦田 明¹⁾

¹⁾ 大阪医科薬科大学病院 薬剤部、²⁾ 天の川病院、³⁾ 天の川病院 薬剤科

ポスター発表 21 医療経済、その他

6月22日(日) 8:45~9:45 ポスター会場(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホール A)

座長: 近藤 匡慶(日本医科大学多摩永山病院薬剤部)

P21-1 がん専門病院における医療用麻薬の廃棄の現状と削減に向けた課題の探索

○塩月 智子、山崎 朋子、櫻澤 有紀

地方独立行政法人 栃木県立がんセンター 薬剤部

P21-2 麻薬小売業者間譲渡に関する大賀薬局福岡市内46店舗の麻薬調剤の実態調査 第二報

○江口 真理子¹⁾、吉田 葉子¹⁾、馬場 悠輔¹⁾、濱野 和江²⁾、渡辺 涼³⁾、鄭 唯学⁴⁾、
長郷 あかね⁵⁾

¹⁾ 株式会社大賀薬局 野芥調剤店、²⁾ 株式会社大賀薬局 地下鉄福大前店、³⁾ 株式会社大賀薬局 薬局エディケーション課、⁴⁾ 株式会社大賀薬局 営業二課 早良城南ブロック、⁵⁾ 福岡大学病院 薬剤部

P21-3 在宅医療を専門に行う保険薬局における特定保険医療材料の処方実態および損益額の検討

○三田村 しのぶ¹⁾、首藤 誠¹⁾、小林 篤史²⁾、高田 雅弘¹⁾

¹⁾ 摂南大学 薬学部 医療薬学研究室、²⁾ 在宅医療特化型 カリン薬局

P21-4 当薬局における麻薬の在庫管理状況の調査と管理上の問題点に関する考察

○天方 奉子、稲葉 一郎

薬局セントラルファーマシー長嶺

P21-5 婦人科手術患者における術後痛・嘔気に対する術後アセトアミノフェン定期投与の影響

○地丸 裕美¹⁾、宮本 朋佳^{1,2)}、山崎 綾子¹⁾、山田 正実¹⁾、高橋 一栄¹⁾

¹⁾ 大阪府済生会野江病院 薬剤科、²⁾ 兵庫医科大学薬学部 臨床薬学分野

P21-6 在宅医療における、がん性皮膚自壊創に対するMohsペーストシートの実践

○餅原 弘樹、川村 幸子、古賀 友之

医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック

P21-7 当院における緩和ケア病棟での薬剤師業務の現状調査

○山中 光¹⁾、箕輪 僚耶¹⁾、吉川 慧²⁾、草野 元¹⁾

¹⁾ いわき市医療センター、²⁾ 医療創生大学

P21-8 フェンタニル注射液の供給停止・出荷制限に対する薬剤師の取り組み

○木下 敦子、後藤 総太郎、諸井 良江、平野 明穂、松尾 拓馬、添田 侑希、藤波 薫、
山村 康比古

地方独立行政法人東京都立病院機構 都立駒込病院

P21-9 モルヒネの鎮痛作用および腸管運動抑制作用に対する有機ゲルマニウム化合物 (Ge-132) の効果

○渡辺 千寿子¹⁾、坪井 瑞季¹⁾、熊谷 一生¹⁾、善積 克¹⁾、島田 康弘²⁾、中村 宜司²⁾、
溝口 広一¹⁾

¹⁾ 東北医科薬科大学 薬学部 機能形態学教室、²⁾ 株式会社 浅井ゲルマニウム研究所